

TRIPLE BAND

50MHz / 144MHz / 430MHz FM TRANSCEIVER

C5900B/C5900D

取扱説明書

お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
お使いになる前に、この説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。
本機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3 ページより
ご使用前の準備

9 ページより
使いかたの基本を知ろう

19 ページより
もっと自由にあつかうために

25 ページより
メモリー機能を使うには

31 ページより
ハイパーメモリー機能を使うには

35 ページより
スキャン機能を使うには

43 ページより
レピータを使うには

47 ページより
こんな使いかたもできます

53 ページより
オプションを使って

65 ページより
パケット通信を行うには

69 ページより
ご参考に

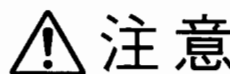
ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 濡れた手で電池や電源コネクタを抜き差ししないでください。感電の原因となる場合があります。
- 当社の電源ケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



警告

- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。



- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コネクタを抜いてください。また、屋外にアンテナが設置されているときは、アンテナコネクタをはずしてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 送信中にアンテナに触れないでください。やけど・けがの原因になります。
- 水につけないでください。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 機器で指定されていないヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



注意

- お手入れの際は安全のため電源コネクタを抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源コネクタを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの皮覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コネクタを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。



- 自動車等の運転中はこの機器を操作しないでください。安全運転の妨げになることがあります。
- 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けがの原因となることがあります。



■ 本書の読みかた

- 本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。また、UHFバンドの430MHz帯を主体に説明しています。
- 本書では、次の記号を使っています。
- P** 参照するページを示します。
- F** ファンクションキーを押した後の操作を表します。
- FB** ファンクションキーを1秒以上押した後の操作を表します。

■ 梱包品をご確認ください

また、保証書にはお買い上げになった販売店、日付が記入されていることをご確認ください。

1. 取扱説明書	1	11. マイクハンガー	1
2. 保証書	1	12. 予備ヒューズ	
3. 営業所一覧	1	C5900B : 10A	2
4. ブロックダイヤグラム	1	C5900D : 12A	2
5. 愛用者カード	1		
6. マイクロホン (CMP884)	1		
7. 無線機本体	1		
8. 電源コード	1		
9. 本体固定ブラケット	1		
10. モービルブラケット止めビス	一式		
ボルト (M 4 mm × 8 mm)	4		
ボルト (M 5 mm × 20mm)	4		
ナット (M 5 mm)	4		
ワッシャー (M 5 mm)	8		
スプリングワッシャー (M 5 mm)	4		
タッピングビス (M 5 mm × 15mm)			
六角スパナ	1		

もくじ

ご使用前の準備 3

使用上のご注意	4
無線機の設置と接続	5
ブラケットを取り付けるには	5
無線機を取り付けるには	5
電源ケーブルを接続するには	6
マイクロホンを接続するには	7
外部スピーカーを接続するには	7
コントロールヘッドを取り外すには	7
延長ケーブルについて	7
アンテナを取り付けるには	8

使いかたの基本を知ろう 9

電源を入れるには	10
音量を調整するには	10
スケルチを調整するには	10
メインバンドを選択するには	11
周波数帯を切り替えるには	11
VFO状態にするには	12
受信するには	12
送信するには	13
各種の設定を最初の状態に戻すには (リセットモード)	13
各部の名称と動作	14

もっと自由にあつかうために 19

コール周波数(呼出周波数)を使うには	20
コール周波数を変えるには	20
コール周波数に各種設定を書き込むには	21
音声途切れるときは(スケルチオフ)	21
送信出力を変えるには	21
使わないバンドを消すには(バンドオフ)	21
間違っ操作するのを防ぐには(キーロック)	22
キーロック中にセレクターを使えるようにするには	22
周波数ステップを変えるには	22
周波数を1MHzステップで変えるには	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)	23

メモリー機能を使うには 25

メモリー機能について	26
メモリーするには	26
メモリーを呼び出すには	27
メモリーを変更するには	27
メモリーを消すには	28
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	28
メモリーの内容を他のメモリーへコピーするには	28
メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)	29
メモリーを保存するには(メモリーバックアップ)	29
メモリーユニットを取り付け、取り外すには	30

ハイパーメモリー機能を使うには 31

ハイパーメモリー(HM)機能について	32
ハイパーメモリーを呼び出すには	32
マニュアルモードでハイパーメモリーを変更するには	33
マニュアルモードとオートモードを切り替えるには	33
オートモードでハイパーメモリーを変更するには	33

スキャン機能を使うには 35

スキャン機能について	36
スキャンのタイプを変更するには	36
スキャンする速さを変えるには	36
1MHz内でスキャンするには (1MHzスキャン)	37
周波数帯の全域をスキャンするには (オールスキャン)	37
指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)	38
メモリー周波数をスキャンするには (メモリスキャン)	39
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリスキャン)	39
指定したメモリーアドレスの範囲をスキャンするには (プログラムメモリスキャン)	40
指定したメモリー周波数をスキャンするには (メモリスキャンメモリー)	41
トーン周波数をスキャンするには (トーンスケルチスキャン)	41

もくじ

レピータを使うには 43

レピータ運用について	44
レピータを使うには（オートレピータモード）	44
オートレピータモードを解除するには	44
手動でレピータモードを設定するには	44
レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには （リバース）	45
レピータ運用のオフセット周波数、 トーン周波数を変えるには	45

こんな使いかたもできます 47

バンドの区分を無くすには	48
間違っって送信しないためには（PTTロック）	48
一定以上の強い信号だけを受信したいとき （RFスケルチ）	48
VHFバンドとUHFバンドの周波数を 同時に変えるには（VFOリンク）	49
表示部の明るさを変えるには（ディマー）	49
ビープ音の大きさをを変えるには	49
PTTを放したときにピッチ音を鳴らすには （スタンバイビープ）	50
送信を自動的に止めるには（タイムアウトタイマー）	50
受信音を自動的に小さくするには（オートミュート）	50
送信時にサブバンドの受信音を止めるには （サブバンドミュート）	50
電源を自動的に切るには（オートパワーオフ）	51

オプションを使って 53

リモコンマイクCMP883を使って（ダイレクト入力）	54
DTMFユニットCTD5700を使って	54
コードスケルチ用のコードを設定するには	55
コードスケルチを使うには	55
ページング用の自分の個別コードを設定するには	55
ページング用の話したい相手のコードを設定するには	56
ページング用のグループコードを設定するには	56
ページングで呼び出すには	57
ページングで待ち受けするには	57
コードスケルチ・ページングが出るまでの時間を 遅らせるには	58
ページングの呼び出し音の回数を変えるには	58

DTMFを使うには	58
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	58
DTMFコードをメモリーするには	59
メモリーしたDTMFコードを書き換えるには	59
メモリーしたDTMFコードを送出するには	60
メモリーしたDTMFコードを消去するには	60
DTMFコードの送出時間の間隔を変更するには	60
トーンスケルチユニットCTN5700を使って	61
トーンエンコーダー・トーンスケルチを使うには	61
トーンスケルチ運用のトーン周波数を変えるには	61
CTD5700・CTN5700を取り付けるには	62
オプションのケーブルを使って （CAW590～CAW593）	63

パケット通信を行うには 65

パケット通信について	66
1200bpsパケット通信について	66
9600bps高速パケット通信について	67
1200bpsと9600bpsを切り替えるには	67
パケット通信で受信するバンドを選ぶには （パケットバンド）	67

ご参考に 69

故障とお考えになるまえに	70
セットモード機能の一覧	71
オプションの紹介	72
アフターサービスについて	72
定 格	73
運用にあたって	74
申請書の書きかた	75
送信機系統図	76
さくいん	77

ご使用前の準備

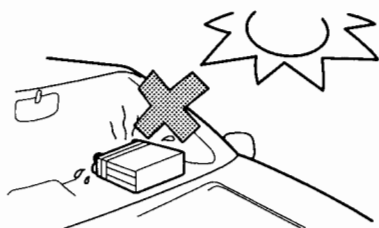
使用上のご注意.....	4
無線機の設置と接続.....	5
ブラケットを取り付けるには	5
無線機を取り付けるには	5
電源ケーブルを接続するには	6
マイクロホンを接続するには	7
外部スピーカーを接続するには	7
コントロールヘッドを取り外すには	7
延長ケーブルについて	7
アンテナを取り付けるには	8

使用上のご注意

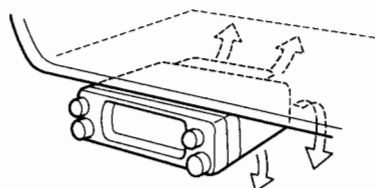
■ 設置場所について

本機の設置場所として、次の点に注意してください。

- 高温、多湿、ホコリの多い場所は避けてください。特に、日光が直接あたる場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。



- 放熱部の冷却効果を下げないため、背面および底面には充分スペースをとってください。長時間使用すると、無線機本体が温かくなりますが、使用上支障はありません。

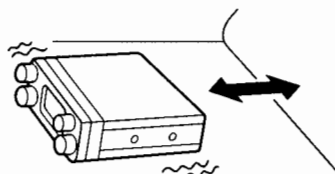


■ 取り付け場所について

- 本機の取り付け場所は、ダッシュボードの下、コンソールボックスの横、および計器類の下などをおすすめします。



- 本機の背面が直接自動車のシートに触れないようにしてください。また、なるべく振動を受けない場所や状態でご使用ください。

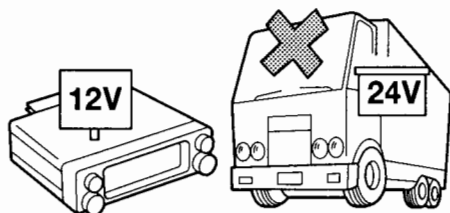


ご注意 次のような場所への取り付けは避けてください。

- ヒーターやクーラーの吹き出し口近く
- 日光が直接あたる場所
- 振動の多い場所
- 自動車本体の電子回路の近く
- 安全運転に支障が出る場所

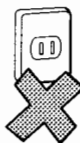
■ 電源について

- 本機は直流(DC)12V仕様車用です。大型車など24V系のバッテリーには絶対に接続しないでください。火災・故障の原因となります。

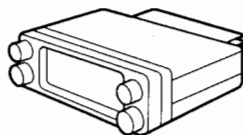


- 交流(AC)100Vには絶対に接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

交流100V



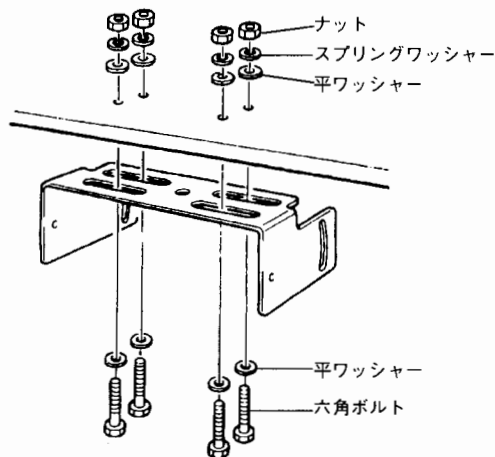
直流12V



無線機の設置と接続

ブラケットを取り付けるには

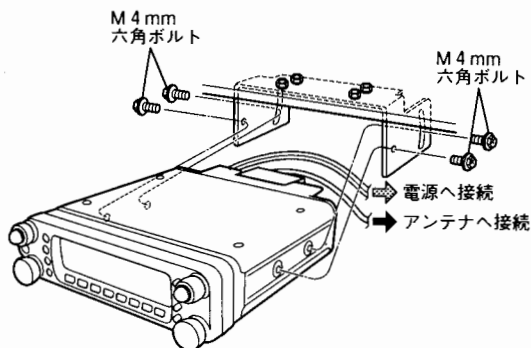
ブラケットはしっかり固定される場所を選んで取り付けてください。また、付属のボルト、ビスを使用して固定してください。



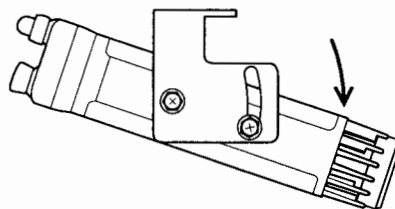
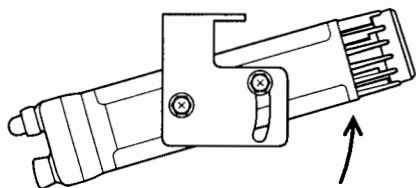
- 1 M 5 mmの六角ボルトを使用するときは、 $\phi 5.2 \sim \phi 5.5 \text{mm}$ の穴を開ける
M 5 mmのタッピングビスを使用するときは、 $\phi 4.0 \sim \phi 4.3 \text{mm}$ の穴を開ける

- 2 M 5 mmの六角ボルトを使用するときは、六角ボルトに平ワッシャーを通す
次に、内装側より平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを通して固定する
M 5 mmのタッピングビスを使用するときは、タッピングビスに平ワッシャーを通し、ネジ込む

無線機を取り付けるには



- 1 本機の後面パネルから出ている同軸ケーブルを、アンテナの同軸ケーブルへ接続する
- 2 本機をブラケットに入れ、M 4 mmのボルトで固定する

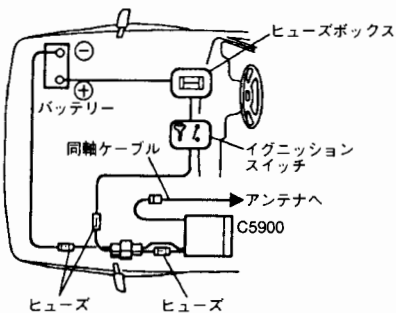
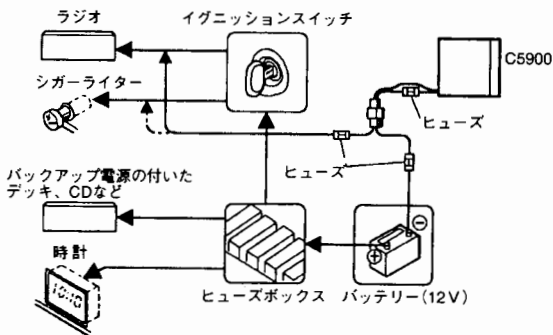
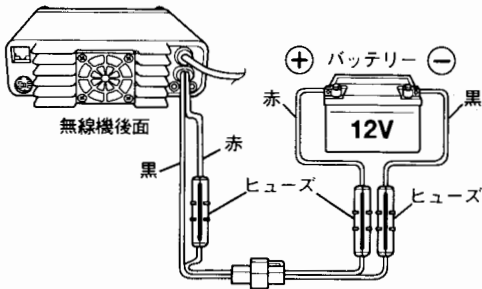
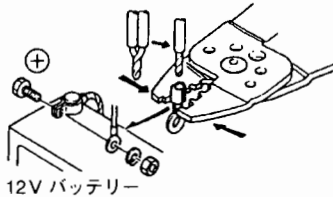


電源ケーブルを接続するには

■ 車載の場合

本機への電源供給は、自動車のバッテリーより行います。

自動車のバッテリーと本機の接続は、付属の電源ケーブルを使用してください。



- 1 作業を行う前に、バッテリーからマイナス(-)端子を外す
(ショートを防止するため、必ず行ってください。)
- 2 赤の配線をプラス(+)端子に接続し、バッテリーの端子がゆるまないように、スパナ等でしっかり締め付ける
- 3 プラス(+)側の作業完了後、マイナス(-)側の端子も同様に接続する。
- 4 手順1で外したマイナス端子を、逆の手順でバッテリーのマイナス(-)端子に接続する
- 5 本機の電源コネクタと電源ケーブルのコネクタを接続する

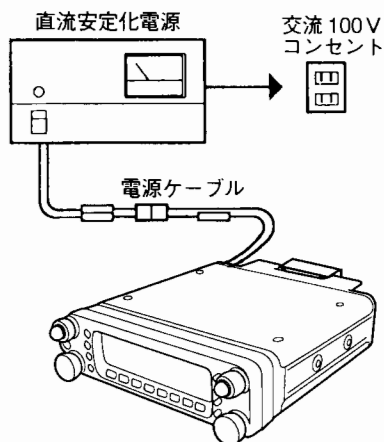
アドバイス

- ◆ 付属の電源ケーブルでは長さが不足する場合は、オプションの延長電源ケーブルCAW575または中継電源ケーブルCAW576をご使用ください。(P.72)
- ◆ イグニッションスイッチと連動させる場合は、手順2で赤の配線を、車のイグニッションキーを通った後の12Vのプラス(+)端子に接続してください。ただし、C5900Dは流れる電流が大きいため、必ずバッテリーの端子に直接接続してください。

ご注意

- ◆ 本機を24V仕様車で使用する場合は、市販の24Vを12Vに変換するDC-DCコンバータを必ずご使用ください。
- ◆ 本機を長時間使用しないときは、電源コードを外してください。
- ◆ C5900Bのヒューズは、必ず10A定格のものを使用してください。
C5900Dのヒューズは、必ず12A定格のものを使用してください。

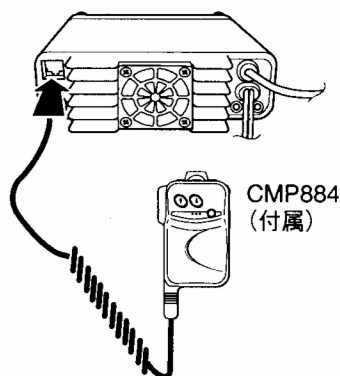
■ 固定局の場合



- 本機を固定局として使用するときは、直流安定化電源を使用してください。
- 直流安定化電源は、以下のものを使用してください。

C5900B	出力電圧	13.8 V
	出力電流	6.5 A 以上
C5900D	出力電圧	13.8 V
	出力電流	12.0 A 以上

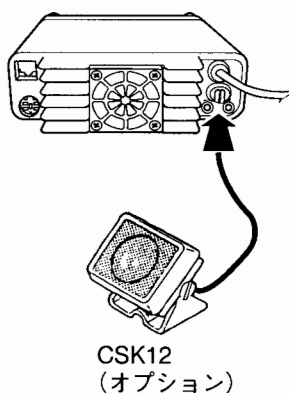
マイクロホンを接続するには



ご注意

- ◆ マイクを接続するときは、必ず電源を切ってから行ってください。

外部スピーカーを接続するには



ご注意

- ◆ 外部スピーカー端子は、スピーカー専用です。イヤホンなどは接続しないでください。
- ◆ 外部スピーカー端子については、「各部の名称と動作」(P.16)をご参照ください。

コントロールヘッドを取り外すには

詳しい内容については、「メモリーユニットを取り付け、取り外すには」(P.30)をご参照ください。

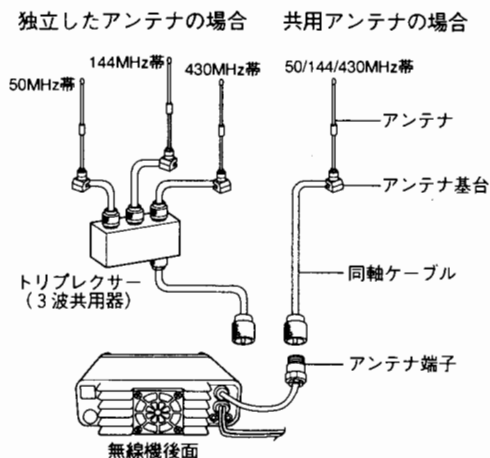
延長ケーブルについて

詳しい内容については、「オプションのケーブルを使って」(P.63)をご参照ください。

アンテナを取り付けるには

■ 車載の場合

無線機の送信および受信の性能は、アンテナの種類や特性に大きく左右されます。運用目的や設置条件に合ったアンテナを選んでください。



● 共用アンテナを使用する場合

本機は、トリプレクサー(3波共用器)を内蔵しています。従って、50/144/430MHz帯共用アンテナをそのまま接続して使用することができます。

● 独立したアンテナを使用する場合

本機のアンテナ端子に、デュプレクサー(2波共用器)、トリプレクサー(3波共用器)、または同軸切換器などを接続することにより、バンドごとに違うアンテナを使用することができます。

ご注意

- ◆ 運用する周波数帯に対応したアンテナを必ず接続してください。また、対応していないアンテナを接続した状態では、絶対に送信しないでください。故障の原因となります。
- ◆ アンテナのVSWRは、1.5以下になるように調整してください。VSWRが高いまま使用すると、本機の保護回路が働いて送信出力が低下したり、故障の原因となります。
- ◆ 同軸ケーブルは、傷をつけたり押しつぶしたりしないでください。
- ◆ アンテナ基台を取り付けるときは、アンテナ基台と車体のアースを完全にとってください。(ノンラジアルタイプの場合は不要です。)

■ 固定局の場合

外部アンテナを使用する場合は、同軸ケーブルをアンテナの直下でループ(たるみ)を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重が加わらないようにしてください。また、コネクターの雨よけや、ケーブルの固定方法については、アンテナの説明書をご参照ください。

屋根の上に設置するときの一例を示しましたが、詳しくは販売店あるいは(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターにご相談ください。接続部の防水対策は、自己融着テープを引っ張りながら2重に巻き、その上を再度ビニールテープなどで巻いてください。



ご注意

- ◆ アンテナが倒れたり、強風で飛ばされたときなど、周囲の人家に危害を加えないよう、支線の張り方などに充分配慮してください。
- ◆ 同軸ケーブルは、できるだけ最短距離で配線してください。

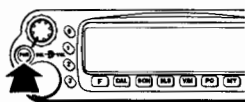
使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	10
音量を調整するには	10
スケルチを調整するには	10
メインバンドを選択するには	11
周波数帯を切り替えるには	11
VFO状態にするには	12
受信するには	12
送信するには	13
各種の設定を最初の状態に戻すには (リセットモード)	13
各部の名称と動作	14

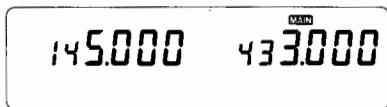
電源を入れるには

コントロールヘッドでは

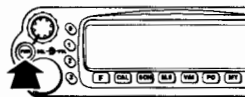
- 1 [PWR] キーを押す



- 2 表示が出たことを確かめる



- 3 電源を切るには、もう一度 [PWR] キーを押す



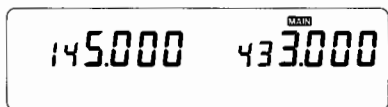
- 4 表示が消えたことを確かめる

リモコンマイクでは

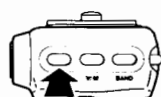
- 1 [POWER] キーを押す



- 2 表示が出たことを確かめる



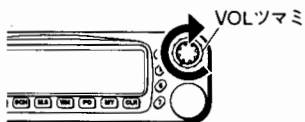
- 3 電源を切るには、もう一度 [POWER] キーを押す



- 4 表示が消えたことを確かめる

音量を調整するには

- 1 音量を大きくするには、調整したいバンドのVOLツマミを、時計方向に回す



- 2 音量を小さくするには、調整したいバンドのVOLツマミを、反時計方向に回す



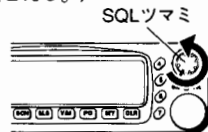
アドバイス

- ◆他の交信が聞こえているときは、その音を目安に音量を調整してください。交信が聞こえないときには、リモコンマイクの [SQLOFF] キーを一度押してください。スケルチオフ状態 (P21) になり、ザーという音が聞こえるので、その音を目安に音量を調整してください。調整が終わりましたら、もう一度 [SQLOFF] キーを押してください。

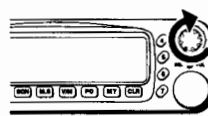
スケルチを調整するには

信号を受けていないときは、ザーという音がでます。この音を消すのがスケルチです。

- 1 調整したいバンドのSQLツマミを、反時計方向に回しきる (ザーという音が聞こえる。)



- 2 SQLツマミをゆっくり時計方向に回す



- 3 ザーという音が消える位置で、ツマミを止める

アドバイス

- ◆ザーという音が出ている状態を「スケルチオフ」といいます。スケルチの操作により、ザーという音が出ない状態を「スケルチオン」といいます。
- ◆SQLツマミを回し過ぎると、弱い信号を受けられないことがあります。
- ◆弱い信号を受信したときに音声が途切れるときは、スケルチオフ機能を使うと途切れなくなります。(音声が途切れるときはP21)
- ◆本機にはRFスケルチ機能 (P48) があり、一定以上の強い信号を受信したときだけスケルチを開かせることができます。

メインバンドを選択するには

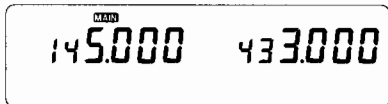
MAINが表示されているバンド(周波数帯)が、メインバンドです。VHFバンドとUHFバンドでメインバンドの切り替えを行います。周波数の変更や送信などは、メインバンドで行います。

コントロールヘッドでは

- 1 操作したいバンドのSQLツマミを押す

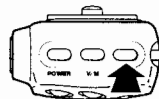


- 2 表示部のMAIN表示が切り替わったことを確かめる

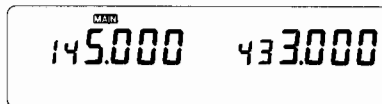


リモコンマイクでは

- 1 [BAND] キーを押す



- 2 表示部のMAIN表示が切り替わったことを確かめる



アドバイス

- ◆ MAINが表示されていないバンドを、「サブバンド」と呼びます。
- ◆ メインバンドが、UHFバンドに移ったときはピピッ音が、VHFに移ったときはビッ音がします。
- ◆ 各バンドは、次の周波数範囲で送信および受信ができます。

VHFバンド

- 50MHz帯: 50.000 ~ 53.995MHz
- 144MHz帯: 144.000 ~ 145.995MHz
- 430MHz帯: 430.000 ~ 439.995MHz

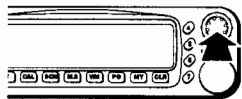
UHFバンド

- 144MHz帯: 144.000 ~ 145.995MHz
- 430MHz帯: 430.000 ~ 439.995MHz

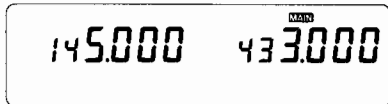
周波数帯を切り替えるには

VHFバンドでは、50/144/430MHz帯を、UHFバンドでは、144/430MHz帯を送信および受信することができます。また、両バンドとも144MHz帯にしたり、430MHz帯にすることもできます。

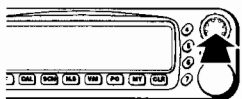
- 1 SQLツマミを押し、メインバンドを選ぶ



- 2 表示部にMAINが表示されていることを確かめる



- 3 SQLツマミを0.6秒以上押す



- 4 周波数帯が切り替わったことを確かめる



アドバイス

- ◆ VHFバンド、UHFバンドとも同じ周波数帯に設定している場合、およびVHFバンドを430MHz帯、UHFバンドを144MHz帯に設定している場合、メインバンドで送信中にサブバンドの受信はできません。また、このときサブバンド側の表示部にMUTEの文字が点滅します。
- ◆ VHFバンドとUHFバンドで、同じ周波数帯を受信していても、Sメーターの振れが異なる場合があります。
- ◆ VHFバンドとUHFバンドの周波数の組み合わせによっては、実際にはない信号が受信されることがありますが、故障ではありません。
- ◆ オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、周波数をダイレクト入力することができます。(ダイレクト入力D54)
- ◆ 本機には、バンドの区分を無くす機能(D48)があります。この機能がOFFのときに、セレクターを回すか、[UP]または[DOWN]キーを押すと、他のバンドに移ることができます。

VFO状態にするには

VFO (Variable Frequency Oscillator) 状態とは、セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、周波数を変えることができる状態をいいます。工場出荷時や、オールリセット、VFOリセット直後は、VFO状態です。

1 SQLツマミを押し、メインバンドを選ぶ



2 表示部を確認める

3 Mが表示されているときは、**[V/M ENT]** キーを押す
(メモリーモードです。P27)

CALが表示されているときは、**[V/M ENT]** キーを押す
(コール周波数です。P20)

小数点が点滅しているときは、**[V/M ENT]** キーを押す
(スキャン中です。P36)

セットモードのときは、**[CLR SET]** キーを押してセットモードを解除した後、各モードに従ってVFO状態にする

4 VFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆ VFOへの戻し方がわからなくなったら、VFOリセット(P13)を行ってみてください。メモリー以外の設定を初期状態に戻し、VFO状態になります。
- ◆ メモリーモードまたはコール周波数のとき、**[CLR SET]** キーを押すと、表示されていた周波数のままでVFO状態になります。
- ◆ コール周波数のとき、セレクターを回すと、表示されていたコール周波数のままでVFO状態になります。

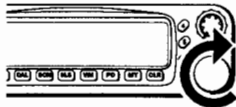
受信するには

話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。本機は各バンドに独立してセレクターがあり、メインバンドを切り替えなくても周波数などを変えることができます。

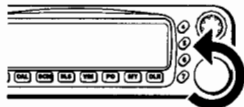
コントロールヘッドでは

1 VFO状態にする

2 周波数を変えたいバンドのセレクターを時計方向に回すと、周波数上がる



3 セレクターを反時計方向に回すと、周波数が下がる



リモコンマイクでは

1 **[BAND]** キーで、メインバンドを選ぶ



2 VFO状態にする

3 **[UP]** キーを押すと、周波数上がる



4 **[DOWN]** キーを押すと、周波数下がる



アドバイス

- ◆ オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、周波数をダイレクト入力することができます。(ダイレクト入力P54)
- ◆ **[UP]** キーおよび **[DOWN]** キーを押し続けると、周波数が連続して変化します。

送信するには

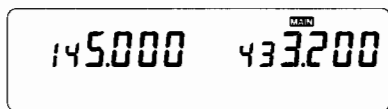
周波数を合わせた相手と、送信する（PTT）スイッチを押すことで話しができます。

- 1 SQLツマミを押し、メインバンドを選ぶ



- 2 VFO状態にする

- 3 話しをしたい相手と、周波数を合わせる



- 4 送信しようとする周波数で、他の人が交信していないことを確かめる

- 5 PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す



各種の設定を最初の状態に戻すには（リセットモード）

設定した状態を、次の4種類の方法で、お買い上げになったときの状態（初期状態）に戻すことができます。

- オールリセット

すべての設定を、初期状態に戻します。
（お買い上げになったときの状態に戻ります。）

表示部：rES ALL

- VFOリセット

VFO、コール周波数、セットモードなどの設定を初期状態に戻します。（メモリーおよびハイパーメモリーは、リセットされません。）

表示部：rES nor

- メモリーリセット

メモリーの設定のみを、初期状態に戻します。
また、CMU161装着時は、CMU161も初期化されます。
（VFOの設定およびハイパーメモリーは、リセットされません。）

表示部：rES mr

- ハイパーメモリー＋VFOリセット

ハイパーメモリーの設定を初期状態に戻し、VFOリセットを行います。（メモリーの設定は、リセットされません。）

表示部：rES Hm n

- メモリーユニット初期化

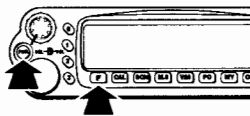
メモリーユニットCMU161（アドレスの080～199）のみを初期化します。

（内蔵のメモリー（アドレスの000～079）は、リセットされません。）

表示部：EE FormAt

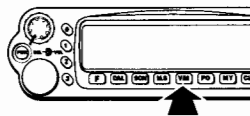
- 1 電源を切る

- 2 [F] キーを押しながら [PWR] キーを押し、電源を入れる



- 3 セレクターを回し、リセットを選ぶ

- 4 [V/MEMT] キーを押す



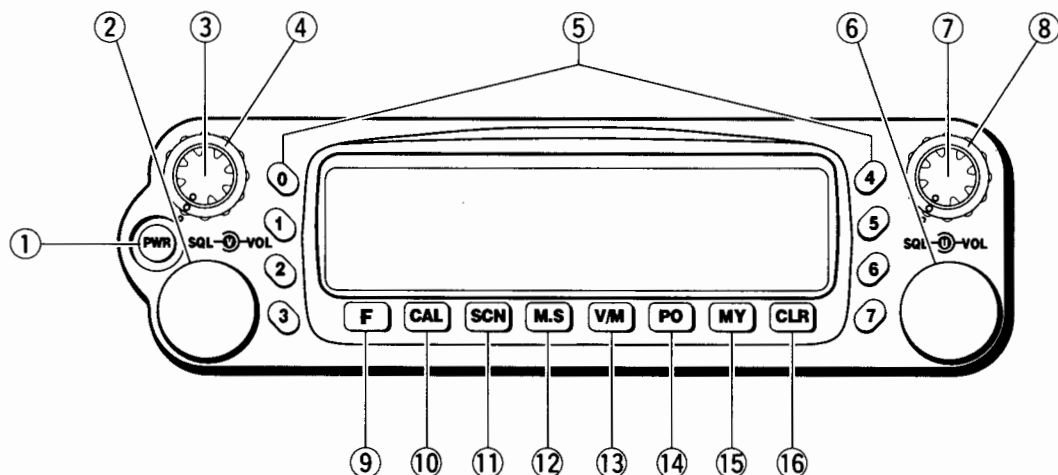
- 5 リセットされたことを確かめる

アドバイス

- ◆ 間違った設定をしてしまい、もとの状態に戻せないときは、VFOリセットを行ってみてください。
- ◆ メモリープロテクト機能（D29）がonのときは、メモリーリセットを行うことができません。
- ◆ オプションのメモリーユニットCMU161をお買い上げ後、初めて使用するときは、ユニットを本機に装着後、必ずメモリーユニット初期化を行ってください。初期化を行わないと使用できません。
- ◆ リセットを行った後は、再度電源を入れ直す必要はありません。
- ◆ リセットの操作を途中で中断する場合は、電源を入れ直してください。

各部の名称と動作

コントロールヘッドの各部の名称と主な動作は次のようになります。



① PWR

- このキーを押し、電源の入/切を行います。
- 電源が切れている状態で、ファンクションキーを押しながら、このキーを押すと、リセットモードになります。

② ロータリーチャンネルセレクター (VHFバンド)

- このつまみを回すと、VHFバンドの周波数を変更することができます。
- 各種の設定を行うときに、設定を変更することができます。
- このつまみを一度押すと、周波数が1MHzステップで変化します。もう一度押すと、もとの周波数ステップに戻ります。
- 本書では、セレクターと表記します。

③ SQLつまみ (VHFバンド)

- このつまみを回し、VHFバンドのスケルチを調整します。
- このつまみを押すと、メインバンドをVHFバンド側にすることができます。
- このつまみを0.6秒以上押すと、周波数帯を切り替えることができます。

④ VOLつまみ (VHFバンド)

- このつまみを回し、VHFバンドの音量を調整します。

⑤ 0～7

- ハイパーメモリー(HM)を呼び出します。
- 本書では、HMボタンと表記します。

⑥ ロータリーチャンネルセレクター (UHFバンド)

- このつまみを回すと、UHFバンドの周波数を変更することができます。
- 各種の設定を行うときに、設定を変更することができます。
- このつまみを一度押すと、周波数が1MHzステップで変化します。もう一度押すと、もとの周波数ステップに戻ります。
- 本書では、セレクターと表記します。

⑦ SQLつまみ (UHFバンド)

- このつまみを回し、UHFバンドのスケルチを調整します。
- このつまみを押すと、メインバンドをUHFバンド側にすることができます。
- このつまみを0.6秒以上押すと、周波数帯を切り替えることができます。

⑧ VOLつまみ (UHFバンド)

- このつまみを回し、UHFバンドの音量を調整します。

⑨ F

- このキーを一度押すと、ファンクションモードになります。このとき、各機能キーの上部に、赤い文字が点灯します。キー操作が3秒間無いときは、ファンクションモードは解除されます。
- 本書では、ファンクションモードを、**F**で表しています。
- このキーを1秒以上押すと、ファンクションブリンクモードになります。このとき、各機能キーの上部に、赤い文字が点滅します。キー操作が10秒間無いときは、ファンクションブリンクモードは解除されます。
- 本書では、ファンクションブリンクモードを、**FB**で表しています。

⑩ CAL C.SQ

- コール周波数(呼出周波数)の呼び出し/解除
- **F**: コードスケルチの設定/解除
- **FB**: コードスケルチのコード設定

⑪ SCN P.S

- 1MHzスキャン、プログラムスキャンの開始/解除
- **F**: プログラムスキャンを行う周波数範囲の設定/開始

⑫ MS MS.M

- メモリスキャンの開始/解除
- **F**: メモリスキャンメモリーの開始/解除
- **FB**: メモリスキャンメモリーの設定

⑬ V/M ENT

- VFO状態とメモリーモードの切り替え
- **F**: メモリーの書き込み (VFO状態)
- **F**: メモリーの書き換え (メモリーモード)
- **F**: コール周波数の書き換え (CALL周波数)
- **F**: セットモードの変更 (セットモード)
- **FB**: メモリーの内容を、他のアドレスへコピーします。
(メモリーモード)

⑭ PO T.SQ

- 送信出力の切り替え
- **F**: トーンエンコーダー、トーンスケルチの設定/解除
- **FB**: トーンスケルチ用トーン周波数の設定

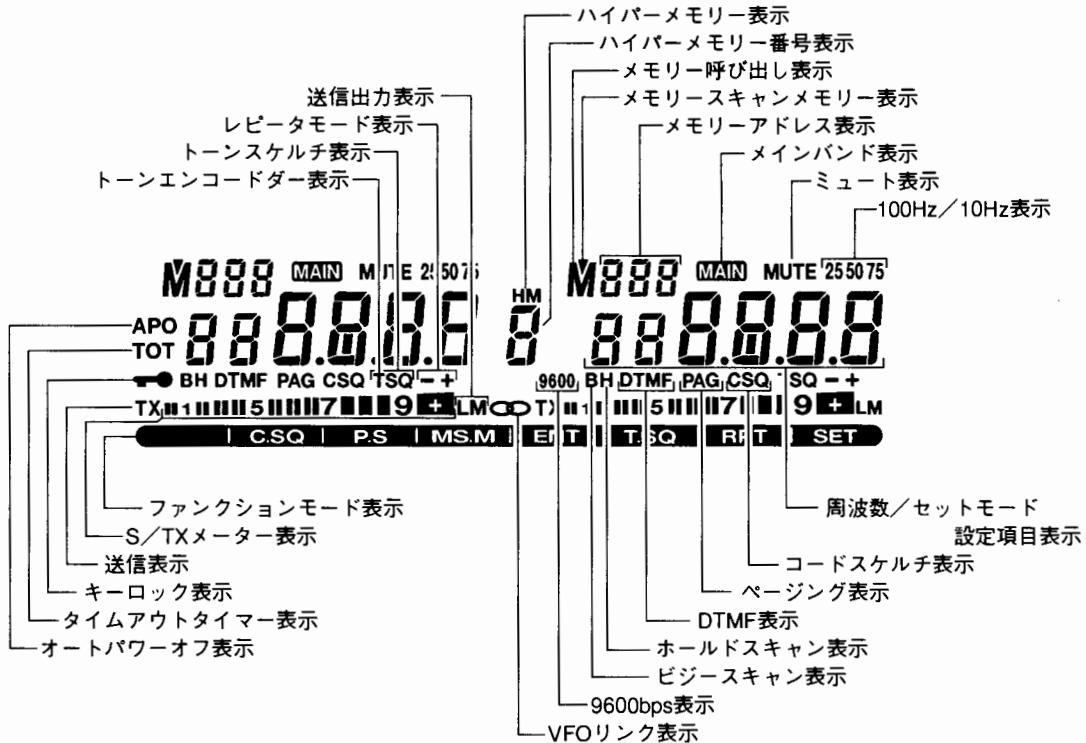
⑮ MY RPT

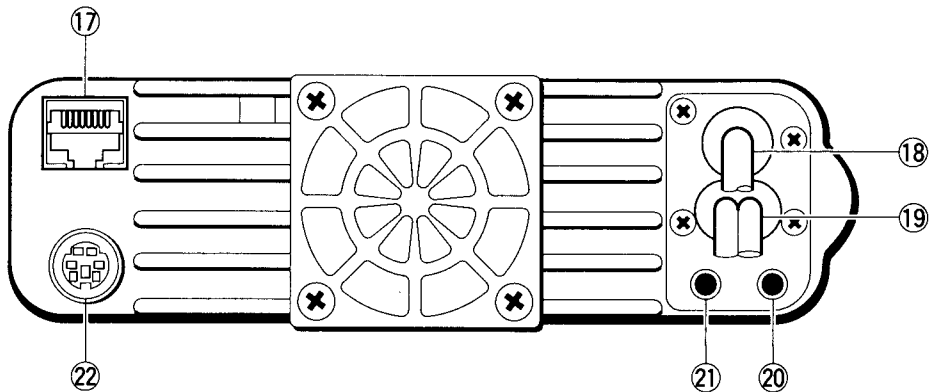
- マイキーに登録したセットモードの切り替え
(初期状態では、キーロックが登録されています。)
- マイキーの登録
(セットモードで、キーを1秒以上押すと登録されます。)
- **F**: レピータモードの設定/解除
- **FB**: レピータ用トーン周波数、オフセット周波数の設定

⑯ CLR SET

- 各機能や動作のキャンセルを行います
- **F**: セットモードになります。
- **FB**: メモリーの消去 (メモリーモード)

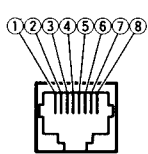
コントロールヘッド表示部





⑰ マイク端子

- マイク端子の各ピンの配線は、次のようになっています。



- ① 13.8V
- ② キーコントロール
- ③ スピーカー出力
- ④ PTT
- ⑤ GND
- ⑥ 音声入力
- ⑦ マイコンインターフェース(データ)
- ⑧ マイコンインターフェース(クロック)

ご注意

- 1番ピンには13.8Vが出力されているので、絶対に他の端子とショートさせないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- C5900専用マイクロホンCMP883、CMP884以外のマイクロホンを使用する場合は、1番ピン、7番ピン、8番ピンには、絶対に何も接続しないでください。接続すると、無線機本体やマイクロホンの故障の原因となります。
- 当社指定以外のマイクロホン・ケーブルなどを接続した場合、これが原因で本機および本機に接続されている機器が、故障・破損することがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となることがあります。

⑱ アンテナ (50/144/430MHz帯共用)

⑲ 電源 (直流 13.8V)

⑳ 外部スピーカー端子 (UHFバンド)

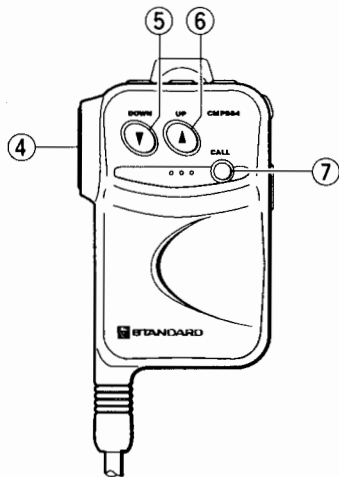
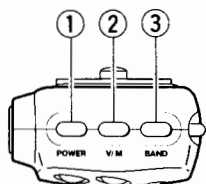
- UHFバンドの端子のみに、外部スピーカーを接続した場合、外部スピーカーからはVHFバンドとUHFバンドの音声混ざって聞こえます。このとき、内蔵スピーカーからは音が出ません。
- VHFバンドとUHFバンドの端子に、それぞれ外部スピーカーを接続した場合、VHFバンドの外部スピーカーからはVHFバンドの音声が、UHFバンドの外部スピーカーからはUHFバンドの音声聞こえます。

㉑ 外部スピーカー端子 (VHFバンド)

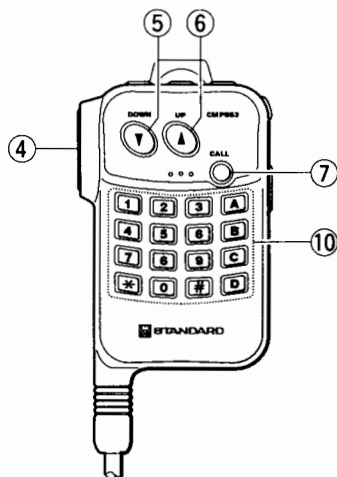
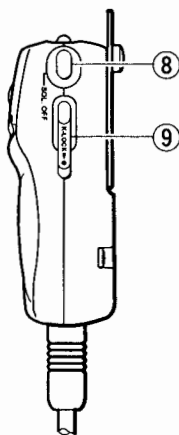
- VHFバンドの端子のみに、外部スピーカーを接続した場合、外部スピーカーからはVHFバンドの音声が聞こえ、内蔵スピーカーからはUHFバンドの音声聞こえます。
- VHFバンドとUHFバンドの端子に、それぞれ外部スピーカーを接続した場合、VHFバンドの外部スピーカーからはVHFバンドの音声が、UHFバンドの外部スピーカーからはUHFバンドの音声聞こえます。

㉒ パケット専用端子

リモコンマイクの各部の名称と主な動作は次のようになります。



CMP884 (付属品)



CMP883 (オプション)

① POWER

- このキーを押し、電源の入/切を行います。

② V/M

- VFO状態とメモリーモードの切り替え

③ BAND

- メインバンドの切り替え

④ PTT

- このスイッチを押している間、メインバンドで送信します。

⑤ DOWN

- 周波数、アドレス番号などがダウンします
- スキャンの一時停止、ダウン方向への再開(スキャン)

⑥ UP

- 周波数、アドレス番号などがアップします
- スキャンの一時停止、アップ方向への再開(スキャン)

⑦ CALL

- コール周波数(呼出周波数)の呼び出し/解除

⑧ SQL.OFF

- このキーを押すと、メインバンドのスケルチがオフになります。

⑨ K-LOCK

- このキーを下にスライドさせると、キーロックが設定されます。リモコンマイクで、**PTT** スイッチと **POWER** キー以外の操作ができなくなります。
(コントロールヘッドはキーロックされません。)

⑩ 16 キー(オプションのCMP883のみ)

- 受信中にキーを押すと、周波数をダイレクト入力することができます。
- 受信中に \square キーを押した後、3秒以内に \square ～ \square キーを押すと、その数字のハイパーメモリーを呼び出すことができます。 \square キーを押した後、キー操作が3秒間無い場合、ポッ音がしてこのモードは解除されます。
(ハイパーメモリーがマニュアルモードの場合、マイクからの操作で変更内容を書き込むことはできません。)
- 送信中にキーを押すと、DTMF信号を送出することができます。(オプションのDTMFユニットCTD5700が必要です。)

もっと自由にあつかうために

コール周波数（呼出周波数）を使うには	20
コール周波数を変えるには	20
コール周波数に各種設定を書き込むには	21
音声途切れるときは（スケルチオフ）	21
送信出力を変えるには	21
使わないバンドを消すには（バンドオフ）	21
間違っ操作するのを防ぐには（キーロック）	22
キーロック中にセレクターを使えるようにするには	22
周波数ステップを変えるには	22
周波数を 1 MHz ステップで変えるには	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには（マイキー）	23

コール周波数（呼出周波数）を使うには

コール周波数(呼出周波数)は、特定または不特定の相手局を呼び出すときに使用します。

コントロールヘッドでは

- 1 メインバンドを選ぶ
(VHFバンドの場合は、周波数帯も選びます。)

- 2 **[CALCSQ]** キーを押す
(表示部にCALが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

The digital display shows 'CAL MAIN' at the top and '433.000' in large digits below it.

- 3 もとの表示に戻るには、**[CALCSQ]** キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLRSET]** キーを押す

リモコンマイクでは

- 1 **[BAND]** キーで、メインバンドを選ぶ
(VHFバンドの場合は、周波数帯も選びます。)

- 2 **[CALL]** キーを押す
(表示部にCALが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

The digital display shows 'CAL MAIN' at the top and '433.000' in large digits below it.

- 3 もとの表示に戻るには、**[CALL]** キーを押す
呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、コントロールヘッドの**[CLRSET]** キーを押す

アドバイス

- ◆手順3で、セレクターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、呼び出されたコール周波数でVFO状態になり、アップまたはダウンします。
- ◆VHFバンドでは、50MHz帯が表示されているときは50MHz帯用コール周波数が、144MHz帯および430MHz帯が表示されているときは、144MHz帯用コール周波数が呼び出されます。UHFバンドでは、周波数帯に関係なく、430MHz帯用コール周波数が呼び出されます。

コール周波数を変えるには

コール周波数を違う周波数に変更できます。

- 1 メインバンドを選ぶ
(VHFバンドの場合は、周波数帯も選びます。)

- 2 **[CALCSQ]** キーまたはマイクの**[CALL]** キーを押す
(表示部にCALが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

The digital display shows 'CAL MAIN' at the top and '433.000' in large digits below it.

- 3 **[F]** キーを押した後、**[VMENT]** キーを押す
(CALの表示が点滅します。)

The digital display shows 'CAL MAIN' at the top and '433.000' in large digits below it. A small dot is positioned to the left of the first '3' in '433', indicating a flashing point.

- 4 セレクターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押し、変更する周波数にする

The digital display shows 'CAL MAIN' at the top and '433.200' in large digits below it.

- 5 ファンクションモードで、**[VMENT]** キーを押す
(CALの表示が点滅から点灯に変わり、コール周波数が変更されました。)

- 6 もとの表示に戻るには、**[CALCSQ]** キーまたはマイクの**[CALL]** キーを押す
変更したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLRSET]** キーを押す

アドバイス

- ◆手順4で、オプションのリモコンマイクCMP883を使うと、周波数をダイレクト入力(D54)することができます。この場合、入力 completedすると、手順5は自動的に行われます。

コール周波数に各種設定を書き込むには

コール周波数に、各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータ、オフセット、レピータ用トーン周波数、コードスケルチ、トーンエンコーダー、トーンスケルチ、トーンスケルチ用トーン周波数です。

1 メインバンドを選ぶ

2 [CALCSQ] キー またはマイクの [CALL] キーを押す (表示部にCALが表示され、コール周波数が呼び出されました。)

3 各種の設定を行う

- レピータモード (P.44)
- オフセット周波数 (P.45)
- レピータ用トーン周波数 (P.45)
- コードスケルチモード (P.55)
- トーンエンコーダーモード (P.61)
- トーンスケルチモード (P.61)
- トーンスケルチ用トーン周波数 (P.61)

4 もとの表示に戻るには、[CALCSQ] キー またはマイクの [CALL] キーを押す 呼び出したコール周波数のままで、VFO状態に戻るには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

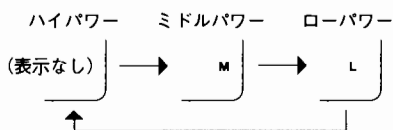
- ◆ トーンエンコーダーモード、トーンスケルチモード、トーンスケルチ用トーン周波数を設定するには、オプションのトーンスケルチユニットCTNS700が必要です。
- ◆ コードスケルチモードを設定するには、オプションのDTMFユニットCTD5700が必要です。

送信出力を変えるには

送信出力を変えることができます。初期状態では、ハイパワーに設定されています。

1 メインバンドを選ぶ

2 [POT.SQ] キーを押し、送信出力を変更する



アドバイス

- ◆ 送信時の表示は、設定により次のようになります。

ハイパワー TX ■■■■■ 5 ■■■■ 7 ■■■■ 9 **+**
ミドルパワー TX ■■■■■ 5 ■■■■ 7 M
ローパワー TX ■■■■■ 5 L

- ◆ 各機種の送信出力は、次のとおりです。

	ハイパワー	ミドルパワー	ローパワー
C5900B	20W	10W	2W
C5900D	45W (50MHz帯) 50W (144MHz帯) 35W (430MHz帯)	10W	3W

- ◆ 送信中でも [POT.SQ] キーを押すことにより、送信出力を変えることができます。

音声が途切れるときは (スケルチオフ)

スケルチが働いていると、弱い信号を受けたときに、音声が出なかったり、途切れたりします。このようなときに、スケルチを一時的にオフにできます。

1 メインバンドを選ぶ

2 スケルチをオフにするには、[SQLOFF] キーを一度押す



3 スケルチをオンに戻すには、もう一度 [SQLOFF] キーを押す



アドバイス

- ◆ RFスケルチ、コードスケルチモード、ページングモード、トーンスケルチモードが設定されているときでも、この機能を使うとスケルチをオフにすることができます。

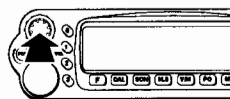
使わないバンドを消すには (バンドオフ)

使わないバンドを消すことができます。これを「バンドオフ」といいます。

1 [F] キーを1秒以上押す

[FB]

2 消したいバンドのSQLツマミを押す



3 消したいバンドの周波数の表示が消えたことを確かめる



アドバイス

- ◆ この機能を解除するには、表示が消えているバンドのSQLツマミを押してください。
- ◆ VHFバンド、UHFバンドの両方を、同時にバンドオフすることはできません。

間違っ操作するのを防ぐには (キーロック)

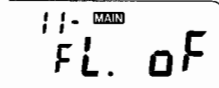
キーやセレクターを間違っ操作し、周波数が変わってしまうのを防ぐ機能です。キーロックは、コントロールヘッド、リモコンマイクでそれぞれ独立して設定できます。

コントロールヘッドでは

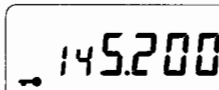
- 1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

F

- 2 セレクターを回し、セットモード番号を 11 にする



- 3 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から on にする (表示部に ● が点灯します。)



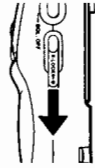
- 4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ この機能を解除するには、手順 3 で表示を oF にしてください。
- ◆ この機能が on のときに操作できるキーは、[F]、[PWR]、およびファンクションモードの状態での [CLRSET] キーのみです。
- ◆ 初期状態では、この機能はマイキーに登録されています。[MYRPT] キーを押すと、この機能を切り替えることができます。
- ◆ コントロールヘッドがキーロックされているとき、セットモードはキーロックの設定以外変更できません。
- ◆ リモコンマイクは、キーロックされません。

リモコンマイクでは

- 1 キーロックを設定するには、[K-LOCK] スイッチを下にスライドする



- 2 キーロックを解除するには、[K-LOCK] スイッチを上スライドする

アドバイス

- ◆ この機能が設定されると、[PTT] スイッチと [POWER] キー以外が操作できなくなります。
- ◆ コントロールヘッドは、キーロックされません。

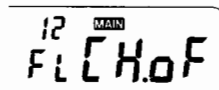
キーロック中にセレクターを使えるようにするには

初期状態では、キーロック中はセレクターの操作ができません。しかし、この機能を設定すると、操作できるようになります。

- 1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

F

- 2 セレクターを回し、セットモード番号を 12 にする



- 3 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から on にする

- 4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ この機能を解除するには、手順 4 で表示を oF にしてください。

周波数ステップを変えるには

初期状態では、コントロールヘッドのセレクターを回すか、マイクの [UP] または [DOWN] キーを押すと、周波数は 20kHz のステップで変わります。周波数のステップは、5/6.25/10/12.5/15/20/25/30/50/100kHz の 10 種類から選ぶことができます。

- 1 メインバンドを選ぶ

- 2 周波数帯を選ぶ

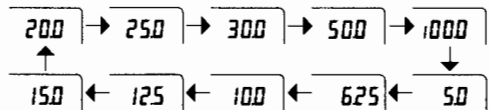
- 3 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

F

- 4 セレクターを回し、セットモード番号を 01 にする



- 5 [V/M ENT] キーを押し、表示を 20.0 から変更する



- 6 終了するには、[CLRSET] キーを押す

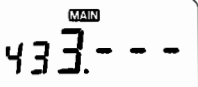
アドバイス

- ◆ 初期状態では、20kHz に設定されています。
- ◆ 各周波数帯ごとに設定できます。

周波数を 1 MHz ステップで変えるには

周波数のステップを 1 MHz で変えることができます。また、このステップを 100 kHz に変えることができます。

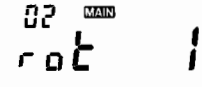
■ステップを 1 MHz で変えるには

- 1 MHz ステップで、変えたいバンドのセレクターを押す
- 周波数表示の 100 kHz 以下が、--- になったことを確かめる

- セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押すと、周波数が 1 MHz で変わる
- もとのステップに戻るには、もう一度セレクターを押す (周波数表示の 100 kHz 以下が、通常の表示に戻る。)

アドバイス

- ◆手順 3 で [UP] または [DOWN] キーを使う場合は、操作するバンドをメインバンドにしてください。

■ステップを 100 kHz に変えるには

- 1 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

- セレクターを回し、セットモード番号を 02 にする
- [V/M ENT] キーを押し、表示を 1 から 0.1 にする
- 終了するには、[CLR SET] キーを押す

アドバイス

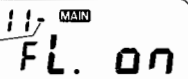
- ◆初期状態では、1 MHz に設定されています。

セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)


[MY RPT] キーに、よく使うセットモードを登録することができます。初期状態では、キーロック (D22) が登録されています。

■マイキーでセットモードを切り替えるには

[MY RPT] キーを押す (セットモードが切り替わり、キーを押している間登録されている機能が表示されます。)

マイキー登録表示 

■マイキーに登録するには

- 1 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

- セレクターを回し、登録したいセットモードを表示させる
- 3 [MY RPT] キーを、1 秒以上押す (登録されるとピー音がし、セットモード番号の後に一が点灯します。)
- 4 終了するには、[CLR SET] キーを押す

アドバイス

- ◆一部登録できないセットモードがあります。登録できるセットモードは、「セットモード機能の一覧」(D71)を参照してください。登録できないセットモードを登録しようとすると、手順 3 でブザーがします。
- ◆オールリセット、VFOリセット、およびハイパーメモリー+VFOリセットを行うと、キーロックが登録された状態に戻ります。(D13)
- ◆セットモードのとき、セットモード番号の後に一が点灯する機能が、現在マイキーに登録されている機能です。

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	26
メモリーするには	26
メモリーを呼び出すには	27
メモリーを変更するには	27
メモリーを消すには	28
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	28
メモリーの内容を他のメモリーへコピーするには	28
メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)	29
メモリーを保存するには (メモリーバックアップ)	29
メモリーユニットを取り付け、取り外すには	30

メモリー機能について

- よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。
- 本機は、VHFバンド80波、UHFバンド80波の周波数を書き込めるメモリーを内蔵しています。また、オプションのメモリーユニットCMU161を使用すると、メモリーを増設することができます。メモリーを増設すると、各バンドそれぞれ120波増え、VHFバンド200波、UHFバンド200波の周波数を書き込むことができます。メモリーユニットは初期化してからお使いください。(P13)
- VHFバンドには50/144/430MHz帯を、UHFバンドには144/430MHz帯を書き込むことができます。
- メモリーに書き込みを行っているときや、呼び出しているときを、「メモリーモード」といいます。
- 周波数を書き込んだメモリーの番号を、「メモリーアドレス」といいます。メモリーアドレスは、000～079まであります。また、オプションのメモリーユニットCMU161を使用してメモリーの増設を行うと、メモリーアドレスは、000～199になります。
- 各メモリーには、周波数の他に次の内容を書き込むことができます。

レピータモード (P44)
 オフセット周波数 (P45)
 レピータ用トーン周波数 (P45)
 コードスケルチモード (P55)
 トーンエンコーダーモード (P61)
 トーンスケルチモード (P61)
 トーンスケルチ用トーン周波数 (P61)
 メモリースキャンメモリーの設定 (P41)

- 書き込んだ内容を、間違っって変更したり、消してしまうのを防ぐ、メモリープロテクト機能があります。(P29)
- 本機は、内蔵のメモリーユニットに書き込まれている、各種機能の設定、メモリー(メモリーアドレス000～079)、ハイパーメモリーなど、本機のすべての情報を、メモリーユニットCMU161に保存することができる、メモリーバックアップ機能があります。(P29)

メモリーするには

よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする

- 2 周波数帯を選ぶ

- 3 セレクターを回すか、[UP]または[DOWN]キーを押し、メモリーに書き込みたい周波数にする

MAIN
433.200

- 4 [F]キーを押した後、[V/MENT]キーを押し(空いているメモリーアドレスが表示されます。)

メモリーアドレス
000 MAIN
433.200

- 5 セレクターを回すか、[UP]または[DOWN]キーを押し、書き込みたいメモリーアドレスにする

001 MAIN
433.200

- 6 ファンクションモードで、[V/MENT]キーを押し(ビー音がし、メモリーに書き込まれました。)

F

- 7 約1秒後にVFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆ 手順3でメモリーに空きがないと、ブザーが鳴ります。このときは、「メモリーを変更するには」(P27)、または「メモリーを消すには」(P28)の手順に従って、不要なメモリーを変更するか、消してください。
- ◆ 手順4～5で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていないアドレスのみです。
- ◆ 手順5でセレクターを押しながら回すと、アドレスを早送りすることができます。
- ◆ 操作を途中で中断する場合は、手順6を行う前に、ファンクションモードではないことを確かめた後、[V/MENT]キーまたは[CLR/SET]キーを押してください。

メモリーを呼び出すには

書き込まれている周波数を呼び出します。

コントロールヘッドでは

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[V/M ENT]** キーを押す3 セレクターを回し、呼び出すメモリーアドレスにする
(メモリーが呼び出されました。)

4 もとの表示に戻るには、**[V/M ENT]** キーを押す
呼び出したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLR SET]** キーを押す

リモコンマイクでは

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[VM]** キーを押す3 **[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、呼び出すメモリーアドレスにする
(メモリーが呼び出されました。)

4 もとの表示に戻るには、**[VM]** キーを押す
呼び出したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、コントロールヘッドの**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆メモリーに何も書き込まれていないときは、手順2で**[V/M ENT]** キーを押すと、ブツ音がします。
- ◆手順2～3で呼び出されるメモリーは、メモリーされているアドレスのみです。
- ◆手順3で、セレクターを押しながら回すと、アドレスを早送りすることができます。

アドバイス

- ◆メモリーに何も書き込まれていないときは、手順2で**[VM]** キーを押すと、ブツ音がします。
- ◆手順2～3で呼び出されるメモリーは、メモリーされているアドレスのみです。

メモリーを変更するには

書き込まれている周波数を、別の周波数に変えることができます。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[V/M ENT]** キーまたはマイクの**[VM]** キーを押す3 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、変更するメモリーアドレスにする

4 **[F]** キーを押した後、**[V/M ENT]** キーを押す
(表示部のMが点灯から点滅に変わります。)

5 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、変更したい周波数にする

6 ファンクションモードで、**[V/M ENT]** キーを押す
(表示部のMが点滅から点灯に変わり、メモリーが変更されました。)

7 もとの表示に戻るには、**[V/M ENT]** キーまたはマイクの**[VM]** キーを押す
変更したメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆手順5で、オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、ダイレクト入力ができます。(P.54)

メモリーを消すには

書き込まれているメモリーを、消すことができます。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[V/M ENT]** キー またはマイクの **[V/M]** キーを押す

3 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、消去するメモリーアドレスにする

M001 MAIN
433.200

4 **[F]** キーを1秒以上押した後、**[CLR SET]** キーを押す
(ピー音がし、メモリーが消去されました。)

[FB]

5 VFO状態に戻ったことを確かめる

アドバイス

- ◆手順4を行うと、消えたメモリーを復活させることはできません。操作を途中で中断する場合は、ファンクションプリンクモードではないことを確かめた後、**[V/M ENT]** キーまたは **[CLR SET]** キーを押してください。

メモリーの内容を他のメモリーへコピーするには

メモリーに書き込まれている、周波数や各種機能の設定を、すべて他のメモリーアドレスへコピーすることができます。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[V/M ENT]** キー またはマイクの **[V/M]** キーを押す

3 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、コピー元のメモリーアドレスにする

M001 MAIN
433.200

4 **[F]** キーを1秒以上押した後、**[V/M ENT]** キーを押す
(空いているメモリーアドレスが表示されます。)

[FB]

5 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、コピー先のメモリーアドレスにする

005 MAIN
433.200

6 **[F]** キーを押した後、**[V/M ENT]** キーを押す
(ピー音がし、メモリーがコピーされました。)

[F]

メモリー周波数に各種設定を書き込むには

書き込まれている周波数に、各種の設定を書き込むことができます。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 **[V/M ENT]** キー またはマイクの **[V/M]** キーを押す

3 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押して、設定するメモリーアドレスにする

4 各種の設定を行う

- レピータモード (P.44)
- オフセット周波数 (P.45)
- レピータ用トーン周波数 (P.45)
- コードスケルチモード (P.55)
- トーンエンコーダーモード (P.61)
- トーンスケルチモード (P.61)
- トーンスケルチ用トーン周波数 (P.41)

5 もとの表示に戻るには、**[V/M ENT]** キーまたはマイクの **[V/M]** キーを押す

メモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆トーンエンコーダーモード、トーンスケルチモード、トーン周波数を設定するには、オプションのトーンスケルチユニットCTN5700が必要です。
- ◆コードスケルチモードを設定するには、オプションのDTMFユニットCTD5700が必要です。

7 もとの表示に戻るには、**[V/M ENT]** キーまたはマイクの **[V/M]** キーを押す

コピーしたメモリー周波数のままで、VFO状態に戻るには、**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆VHFバンドとUHFバンド間のコピーはできません。
- ◆手順4でメモリーに空きがないと、ブツ音がします。このときは、「メモリーを消すには」(P.28)の手順に従って、不要なメモリーを消してください。
- ◆手順4～5で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていないアドレスのみです。
- ◆ブロックメモリースキャン(P.39)などのために、メモリーアドレスを変更したい場合に、この機能を使うと便利です。

メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)

メモリーされている各種の設定を間違えて変更したり、消すのを防ぐことができます。

1 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

2 セレクターを回し、セットモード番号を 10 にする

M 10 MAIN
PrO. oF

3 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から on にする

4 終了するには、[CLR SET] キーを押す

アドバイス

- ◆ この機能が on に設定されていても、オールリセット(D13)を行うと、メモリーはすべて消去されます。
- ◆ オールリセット、VFOリセット、およびハイパーメモリー+VFOリセットを行うと、設定は初期状態のoFに戻ります。(D13)

メモリーを保存するには (メモリーバックアップ)

内蔵のメモリーユニットに書き込まれている、各種機能の設定、メモリー(メモリーアドレス000~079)、ハイパーメモリーなど、本機のすべての情報を、メモリーユニットCMU161に保存することができます。また、必要なときに、保存した内容を本機へ読み込むことができます。(増設したメモリーの内容(メモリーアドレス080~199)は、保存できません。)この機能を使うと、C5900のすべての状態(メモリーの増設部分を除く)を、他のC5900へコピーすることができます。

■メモリーユニットへ保存するには

1 VHFバンド、UHFバンドとも、VFO状態にする

2 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

3 セレクターを回し、セットモード番号を 33 にする

33 MAIN
EE oF

4 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から out にする

5 [F] キーを押した後、[V/M ENT] キーを押す
(ビッ音がし、保存が始まります。この間は操作できません。)

6 しばらくするとピー音がし、保存が終了します

■メモリーユニットから読み込むには

1 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

2 セレクターを回し、セットモード番号を 33 にする

3 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から in にする

4 [F] キーを押した後、[V/M ENT] キーを押す
(ビッ音がし、読み込みが始まります。この間は操作できません。)

5 読み込みが完了すると、ピー音がした後一度電源が切れ、再び電源が入ります (コピーが終了しました。)

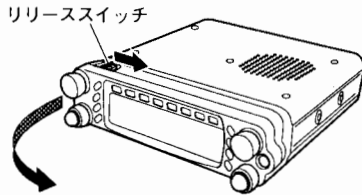
アドバイス

- ◆ メモリーユニットへの保存、メモリーユニットからの読み込みを行っているときには、絶対に電源を切らないでください。メモリーの内容が壊れ、初期状態になる場合があります。
- ◆ メモリーユニットは、メモリーの増設またはメモリーバックアップの、どちらか一方にしか使用できません。両方の機能をお使いになる場合は、メモリーユニットを2つご用意ください。
- ◆ メモリーの増設用として使用しているメモリーユニットを取り付け、メモリーユニットへの保存を行うと、メモリーの増設部分(メモリーアドレスの080~199)の内容は消去されます。
- ◆ メモリーの増設用として使用しているメモリーユニットを取り付け、メモリーバックアップのデータをメモリーユニットから読み込もうとすると、手順4でビッ音がします。
- ◆ メモリーバックアップとして使用しているメモリーユニットを、メモリーの増設用としてそのまま使用することはできません。必ずメモリーユニット初期化を行ってから使用してください。なお、初期化を行うと、メモリーバックアップの内容は消去されます。
- ◆ あらかじめ本機の状態を保存しておく、誤った操作をして戻せなくなったり、オールリセットなどをしたとき、すぐにもとの状態に戻すことができます。
- ◆ メモリーバックアップしたメモリーユニットを取り付けたままオールリセットを行うと、メモリーバックアップの内容が消去されます。ご注意ください。

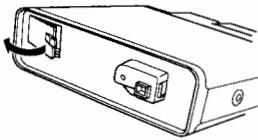
メモリーユニットを取り付け、取り外すには

1 電源が切れていることを確かめる

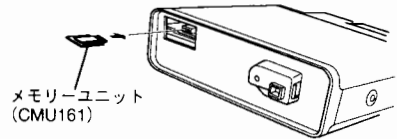
- 2 本体底面にあるリリーススイッチを、矢印の方向へスライドさせた状態で、コントロールヘッドのリリーススイッチ側を手前に引く



3 本体前面のフタを外す



- 4 メモリーユニットに貼られているCMU161という文字側を上にし、まっすぐ差し込む



- 5 手順3で外したフタを、再び元のように取り付ける

- 6 手順2で外したコントロールヘッドを、再び元のように取り付ける

アドバイス

- ◆メモリーユニットは、コネクターの奥まで、まっすぐ確実に差し込んでください。メモリーユニットが確実に差し込まれていないと、誤動作や故障の原因となります。また、上下を逆にして無理に取り付けると、コネクタや基板を破損します。
- ◆メモリーユニットをお買い上げになって初めてご使用になるときは、本機に装着した後、必ず「メモリーユニット初期化」(P13)を行ってください。初期化を行わないと使用できません。
- ◆当社のC5900以外の無線機で使用していたCMU161をそのまま取り付けても使用できません。この場合、「メモリーユニット初期化」を行うと、本機でも使用できるようになります。ただし、「メモリーユニット初期化」を行うと、書き込まれていたデータは、すべて消去されます。
- ◆「メモリーユニット初期化」と間違え、「メモリーリセット」を行わないよう、ご注意ください。「メモリーリセット」を行うと、内蔵メモリー(000~079)の内容も消えてしまいます。

ハイパーメモリー機能を使うには

ハイパーメモリー（HM）機能について	32
ハイパーメモリーを呼び出すには	32
マニュアルモードでハイパーメモリーを変更するには	33
マニュアルモードとオートモードを切り替えるには	33
オートモードでハイパーメモリーを変更するには	33

ハイパーメモリー (HM) 機能について

- ハイパーメモリーには、VHFバンド、UHFバンドに関係なく、無線機のほとんどの状態を書き込むことができます。
- 本書では、ハイパーメモリーをHMと表記します。
- コントロールヘッドには、HM専用のHMボタンを8個装備しており、各メモリーをワンタッチで呼び出すことができます。
- HMボタンの①～⑦を押すと、各HMを呼び出すことができます。また、HMボタンの⑩を押すと、通常のVFO状態に戻ることができます。
- 各HMには、初期状態では次の周波数書き込まれています。

HM番号	VHFバンド (MHz)	UHFバンド (MHz)
0	145.00	433.00
1	51.00	145.00
2	51.00	433.00
3	145.00	145.00
4	145.00	433.00
5	433.00	433.00
6	51.00	433.00
7	145.00	433.00

- HMには、マニュアルモードとオートモードの2種類のモードがあります。初期状態では、マニュアルモードに設定されています。
 - マニュアルモード
HMを呼び出した後、周波数や各種の設定などを一時的に変えることはできますが、変更した状態は保存されません。再度同じHMを呼び出すと、変更する前の状態が呼び出されます。変更した状態を保存するには、書き込む操作を行う必要があります。
 - オートモード
HMを呼び出した後、周波数や各種の設定など変更すると、その状態が自動的に保存されます。再度同じHMを呼び出すと、最後に操作した状態が呼び出されます。書き込む操作を行う必要がないので、VFOが8種類あるように操作することができます。

- 各HMには、周波数の他に、次の内容を書き込むことができます。
 - メインバンド
 - メモリー呼び出し、スキャンなどの状態
 - 送信出力
 - セットモードのアドレス
 - レビータモード
 - オフセット周波数
 - レビータ用トーン周波数
 - コードスケルチ
 - トーンエンコーダー
 - トーンスケルチ
 - トーンスケルチ用トーン周波数
 - セットモードの一部

セットモード番号	機能
06	スキャンモード
14	オートミュート
16	VFOリンク
20	ページングモード
23	DTMFモード
28	1200bps/9600bps切り替え

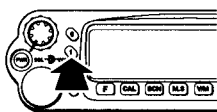
- オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、リモコンマイクから操作で、各HMを呼び出すことができます。受信中に[#]キーを押した後、3秒以内に[0]～[7]キーを押すと、その数字のHMが呼び出されます。[#]キーを押した後、キー操作が3秒間無い場合、ボツ音がしてこのモードは解除されます。

ハイパーメモリーを呼び出すには

書き込まれているHMを呼び出します。

- 1 HMを呼び出すには、HMボタンの①～⑦を押す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
HMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[7]キーを押す



- 2 HMが呼び出され、表示部にHMの文字と、呼び出したHMの番号が表示されたことを確認する



HM番号

- 3 通常のVFO状態に戻るには、HMボタンの⑩を押す
他のHMを呼び出すには、HMボタンの①～⑦を押す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
通常のVFO状態に戻るには、[#]キーを押した後、[0]キーを押す
他のHMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[7]キーを押す

アドバイス

- ◆ 手順2の状態、周波数や各種の設定を一時的に変えることができます。HMがマニュアルモードのときは、変更した状態は保存されません。再度同じHMを呼び出すと、変更する前の状態が呼び出されます。オートモードのときは、周波数や各種の設定など変更すると、その状態が保存されます。再度同じHMを呼び出すと、最後に操作した状態が呼び出されます。
- ◆ 手順2で、HMの0を呼び出した場合、HM番号は表示されません。
- ◆ HMの1～7を呼び出しているときに、[VMENT]キーでメモリーを呼び出した場合、[VMENT]キーまたは[CLRSET]キーでVFO状態に戻ると、表示されていたメモリー周波数のままでVFO状態になります。メモリーを呼び出す前の周波数に戻ることはできません。
- ◆ HMの1～7を呼び出しているときに、[CALCSQ]キーでコール周波数を呼び出した場合、[CALCSQ]キーまたは[CLRSET]キーでVFO状態に戻ると、表示されていたコール周波数のままでVFO状態になります。コール周波数を呼び出す前の周波数に戻ることはできません。
- ◆ HMの1～7を呼び出しているときに、SQLツマミを押して周波数帯を切り替えるか、リモコンマイクCMP883を使用してダイレクト入力周波数帯を切り替えると、各周波数帯の初期状態で設定されている周波数に戻ります。また、オフセット周波数、レビータ用トーン周波数も初期状態に戻ります。ただし、HMの0のみは、最後に操作したときの状態が表示されます。

周波数帯	初期周波数 (MHz)
50MHz	51.00
144MHz	145.00
430MHz	433.00

マニュアルモードでハイパーメモリーを変更するには

HMに書き込まれている周波数や各種の設定を変更することができます。

■マニュアルモードの場合の変更方法

- 1 通常のVFO状態を呼び出すには、HMボタンの⑩を押す
HMを呼び出すには、HMボタンの①～⑦を押す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
通常のVFO状態を呼び出すには、[#]キーを押した後、
[0]キーを押す
HMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[7]キー
を押す



- 2 周波数や各種機能の設定を行う
(HMの①～⑦を呼び出した場合、周波数や設定などを変更すると、HM番号の数字が点灯から点滅に変わります。)



- 3 書き込みたいHMボタン(①～⑦)を、約2秒間押す
(以前の内容が表示され、ビップビップ音がした後、ビー音がしてメモリーに書き込まれます。また、HM番号の数字が点滅から点灯に変わります。)

マニュアルモードとオートモードを切り替えるには

HMに周波数や各種の設定を書き込むには、マニュアルモードとオートモードの2種類の方法があります。

■オートモードにするには

- 1 [F]キーを押した後、[CLRSET]キーを押す

- 2 セレクターを回し、セットモード番号を19にする



- 3 [V/MENT]キーを押し、表示をoFからonにする

- 4 終了するには、[CLRSET]キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、oF(マニュアルモード)に設定されています。
- ◆この機能をマニュアルモードに戻すには、手順3で表示をoFにしてください。

- 4 通常のVFO状態に戻るには、HMボタンの⑩を押す
他のHMを呼び出すには、HMボタンの①～⑦を押す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
通常のVFO状態に戻るには、[#]キーを押した後、[0]キー
を押す
他のHMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[7]キー
を押す

アドバイス

- ◆通常のVFO状態(HMの0)の内容を、HMの1～7に書き込むことはできませんが、HMの1～7の内容を、通常のVFO状態(HMの0)に書き込むことはできません。
- ◆手順2で、HMの0を呼び出した場合、HM番号は表示されません。
- ◆手順3で、ビー音がする前にボタンから指を離すと、押したボタンのHMが呼び出された状態になります。
- ◆オプションのリモコンマイクCMP883からは、手順3の書き込み操作を行うことはできません。

オートモードでハイパーメモリーを変更するには

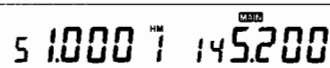
オートモードでは、HMに書き込まれている周波数や各種の設定を変更すると、最後に操作した状態が自動的に保存されます。

■オートモードの場合の変更方法

- 1 HMボタンの①～⑦を押して、変更するHMを呼び出す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
[#]キーを押した後、[1]～[7]キーを押して、変更するHMを
呼び出す

- 2 周波数や各種機能の設定を行う
(周波数や各種の機能を変更すると、自動的に書き込まれます。)



- 3 通常のVFO状態に戻るには、HMボタンの⑩を押す
他のHMを呼び出すには、HMボタンの①～⑦を押す

リモコンマイクCMP883では(オプション)
通常のVFO状態に戻るには、[#]キーを押した後、[0]キー
を押す
他のHMを呼び出すには、[#]キーを押した後、[1]～[7]キー
を押す

スキャン機能を使うには

スキャン機能について	36
スキャンのタイプを変更するには	36
スキャンする速さを変えるには	36
1 MHz内でスキャンするには（1 MHzスキャン）	37
周波数帯の全域をスキャンするには（オールスキャン）	37
指定した範囲をスキャンするには（プログラムスキャン）	38
メモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャン）	39
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには （ブロックメモリースキャン）	39
指定したメモリーアドレスの範囲をスキャンするには （プログラムメモリースキャン）	40
指定したメモリー周波数をスキャンするには （メモリースキャンメモリー）	41
トーン周波数をスキャンするには（トーンスケルチスキャン）	41

スキャン機能について

- この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。
- この機能には、次の8種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。
- 1MHzスキャン
周波数の1MHz台は越えずにスキャンします。
- オールスキャン
周波数帯の全域をスキャンします。
- プログラムスキャン
指定した範囲をスキャンします。
- メモリースキャン
メモリーしている周波数をスキャンします。
- ブロックメモリースキャン
メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリアドレスの10の桁を1つのブロックとします。
- プログラムメモリースキャン
指定したメモリアドレス間をスキャンします
- メモリースキャンメモリー
指定したメモリーをスキャンします。
- トーンスケルチスキャン
トーン周波数をスキャンします。トーンが一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。このスキャンを行うには、オプションのトーンスケルチユニットCTN5700が必要です。

- スキャンの止まりかたには、次の3種類があります。
- ポーズスキャンタイプ
信号を受けると、スキャンは止まります。信号が無くなるか、信号を受けていても約5秒経過すると、スキャンを再開します。
- ビジースキャンタイプ
信号を受けると、信号を受けている間スキャンは止まり続けます。信号が無くなると、スキャンを再開します。
- ホールドスキャンタイプ
信号を受けると、スキャンは止まります。また、信号が無くなってても、スキャンは止まり続けます。スキャンを再開するには、セレクトターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押します。

アドバイス

- ◆ スキャンする前には、ザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回してください。
- ◆ スキャン中に**[PT]**スイッチを押すと、スキャンが解除され、送信を行います。
- ◆ スキャン中に、セレクトターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、スキャンの方向を変えることができます。
- ◆ スキャン中に、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、その時の周波数で一時停止します。
- ◆ スキャンが止まっているときに、セレクトターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、スキャンを再開させることができます。
- ◆ 1MHzスキャン、オールスキャン、プログラムスキャンのステップは、周波数ステップの設定と同じです。また、スキャン中にセレクトターを一度押すとスキャンが一時停止し、1MHz台を変更することができます。再度セレクトターを押すと、スキャンを再開します。(周波数を1MHzステップで変えるにはP23)
- ◆ トーンスケルチ(P61)が設定されている場合、信号を受けるとスキャンする速さが遅くなります。また、トーン周波数が一致した場合のみスキャンが止まり、スケルチが開きます。
- ◆ RFスケルチ機能(P48)が設定されている場合、信号を受けるとスキャンする速さが遅くなります。また、RFスケルチの設定レベル以上の信号を受信した場合のみスキャンが止まり、スケルチが開きます。

スキャンのタイプを変更するには

スキャンのタイプは、次の手順で変更します。

1 メインバンドを選ぶ



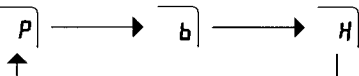
2 **[F]** キーを押した後、**[CLR SET]** キーを押す

3 セレクトターを回し、セットモード番号を06にする

05 MAIN
t y P E . P

4 **[V/M ENT]** キーを押し、スキャンのタイプを選ぶ

ポーズスキャン ビジースキャン ホールドスキャン



5 終了するには、**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、ポーズスキャンに設定されています
- ◆ この設定は、すべてのスキャンに共通です。
- ◆ VHFバンド、UHFバンドそれぞれ独立して設定できます。
- ◆ ビジースキャンを選んだときは、Bが表示されます。ホールドスキャンを選んだときは、Hが表示されます。ポーズスキャンを選んだときは、何も表示されません。

スキャンする速さを変えるには

スキャンの速さを遅くすることができます。

1 **[F]** キーを押した後、**[CLR SET]** キーを押す



2 セレクトターを回し、セットモード番号を05にする

05 MAIN
S C S P H ,

3 **[V/M ENT]** キーを押し、表示をHiからLoにする

4 終了するには、**[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、Hiに設定されています。
- ◆ この設定は、すべてのスキャンに共通です。
- ◆ VHFバンド、UHFバンドで共通です。
- ◆ この機能をHiに設定した場合、弱い信号を受信したときや、周波数帯を移動するメモリースキャンなどでは、スキャンが止まらないことがあります。このときは、Loに設定してください。

1 MHz内でスキャンするには（1 MHzスキャン）

その表示されている周波数の1 MHz台を越えずにスキャンします。レピータの周波数帯をスキャンするときなどに便利です。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

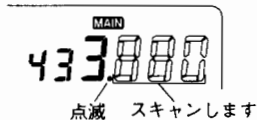
2 周波数帯を選ぶ

3 セレクターを回すか、**[UP]**または**[DOWN]**キーを押して、スキャンを始めたい周波数にする



4 **[SCN.P.S]**キーを押す
(1 MHzスキャンが開始されました。)

5 100kHz台以下がスキャンしていることを確かめる



6 終了するには、**[SCN.P.S]**キーを押す

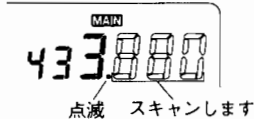
周波数帯の全域をスキャンするには（オールスキャン）

バンドの全域をスキャンします。

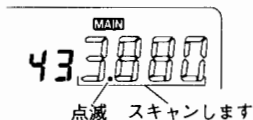
1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 周波数帯を選ぶ

3 **[SCN.P.S]**キーを押す
(1 MHzスキャンが開始されました。)



4 **[F]**キーを押しながら、**[SCN.P.S]**キーを押す
(オールスキャンが開始されました。)



5 終了するには、**[SCN.P.S]**キーを押す

アドバイス

- ◆ オールスキャン中に再度手順4を行うと、1 MHzスキャンになります。
- ◆ バンド区分を無くす機能(D-48)がoFに設定されていると、すべての周波数帯に渡ってスキャンします。

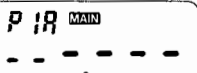
指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)

スキャンを始める周波数と終わる周波数を指定し、その間をスキャンします。プログラム番号はVHFバンド、UHFバンドそれぞれ1～5までの5組あり、範囲の指定には2種類の方法があります。プログラム番号の1～4は周波数で範囲を指定し、プログラム番号の5はメモリーアドレスで範囲を指定します。また、各プログラム番号はAとbが組になっており、その範囲をスキャンします。

■スキャンする範囲を指定・変更するには

1 メインバンドを選ぶ

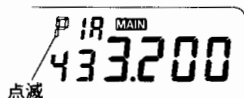
2 [F] キーを押した後、[SCN.P.S] キーを押す



[F]

3 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、スキャンを指定するプログラム番号のA (またはb)にする

4 [F] キーを押した後、[V/M.ENT] キーを押す (表示部のPが点滅します。)



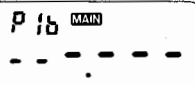
[F]

5 スキャンを始める周波数またはメモリーアドレスにする

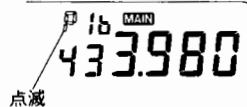
6 ファンクションモードで、[V/M.ENT] キーを押す (表示部のPが点滅から点灯に変わります。)

[F]

7 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、手順3で指定したのと同じプログラム番号のb (またはA)にする



8 [F] キーを押した後、[V/M.ENT] キーを押す (表示部のPが点滅します。)



[F]

9 スキャンを終わる周波数またはメモリーアドレスにする

10 ファンクションモードで、[V/M.ENT] キーを押す (表示部のPが点滅から点灯に変わります。)

[F]

11 終了するには、[CLR.SET] キーを押す

アドバイス

◆手順5、手順9で、オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、ダイレクト入力(D54)ができます。この場合、入力が完了すると、手順6、手順10は自動的に行われます。

■スキャンを始めるには

1 メインバンドを選ぶ

2 [F] キーを押した後、[SCN.P.S] キーを押す

[F]

3 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、スキャンを始めるプログラム番号のA またはbにする

4 [SCN.P.S] キーを押す (スキャンが開始されました。)

5 終了するには、[SCN.P.S] キーを押す

■プログラムを消すには

1 メインバンドを選ぶ

2 [F] キーを押した後、[SCN.P.S] キーを押す

[F]

3 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、消したいプログラム番号のA またはbにする

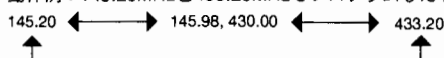
4 [F] キーを1秒以上押した後、[CLR.SET] キーを押す (ピー音がし、プログラムが消去されました。)

[FB]

アドバイス

- ◆プログラムのAとbの両方が設定されていないときは、手順4でブザー音がします。
- ◆スキャンは、周波数の低いほうから、高いほうへ行きます。
- ◆手順3で、プログラム番号がP5AまたはP5bの場合、セレクターを押している間、表示されているメモリーアドレスに書き込まれている周波数を確認することができます。
- ◆プログラム番号のP5AまたはP5bで、指定されているメモリーアドレスの周波数を変更すると、変更された周波数でスキャンします。
- ◆周波数帯の異なる範囲を指定した場合、バンド区分を無くす機能(D48)の設定に関わらず、バンドを越えてスキャンします。

動作例：145.20MHzと433.20MHzをプログラムした場合



アドバイス

- ◆プログラム番号のP5AまたはP5bで指定されているメモリーアドレスが消去されると、P5AまたはP5bも消去されます。

メモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャン)

メモリーしている周波数をすべてスキャンします。

■スキャン前の準備

- 1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

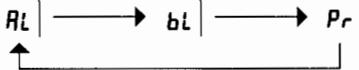


- 2 セレクターを回し、セットモード番号を08にする

M08 MAIN
ScnM AL

- 3 [V/M ENT] キーを押し、表示をALにする

メモリースキャン ブロックスキャン プログラムメモリースキャン



- 4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

■スキャンするには

- 1 メインバンドを選ぶ

- 2 [MS MSM] キーを押す
(スキャンが開始されました。)

M00 MAIN
433200
スキャンします 点滅

- 3 終了するには、[MS MSM] キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、ALに設定されています。初期状態のときには、この手順は省略できます。

アドバイス

- ◆手順2で、メモリーがすべて空のときは、ブツ音がします。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)

メモリースキャンをブロック単位で行います。ブロックとは、メモリアドレスの10の桁を1つのブロックとし、次のようにわかれています。

内蔵メモリー	増設メモリー
M000 ~ M009	M080 ~ M089
M010 ~ M019	M090 ~ M099
M020 ~ M029	M100 ~ M109
}	}
M050 ~ M059	M170 ~ M179
M060 ~ M069	M180 ~ M189
M070 ~ M079	M190 ~ M199

■スキャン前の準備

- 1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



- 2 セレクターを回し、セットモード番号を08にする

- 3 [V/M ENT] キーを押し、表示をbLにする

M08 MAIN
ScnM bL

- 4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

■スキャンするには

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする

- 2 [V/M ENT] キーを押す

- 3 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、スキャンしたいブロックのメモリーを呼び出す

- 4 [MS MSM] キーを押す
(スキャンが開始されました。)

M00 MAIN
433200
スキャンします 点滅

- 5 終了するには、[MS MSM] キーを押す

アドバイス

- ◆スキャン中にセレクターを押しながら回すと、ブロックを変更できません。
- ◆手順2～3を省略した場合、[V/M ENT] キーを押してメモリーを呼び出したときに表示されるブロックをスキャンします。
- ◆手順2で、[F] キーを押した後、[MS MSM] キーを押すと、ブロックメモリースキャンにおいてメモリースキャンメモリー(41)を行うことができます。このとき、スキャンしようとするブロックに、▼が指定されたメモリーが無いときは、指定したブロック以降で、最初に▼が指定されているブロックをスキャンします。

指定したメモリーアドレスの範囲をスキャンするには（プログラムメモリースキャン）

メモリーされているアドレスの中から、スキャンを始めるアドレスと終わるアドレスを指定し、その間をスキャンします。

■スキャン前の準備

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

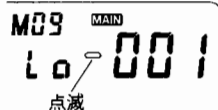
[F]

2 セレクターを回し、セットモード番号を08にする

3 [V/MENT] キーを押し、表示をPrにする

4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

4 セレクターを回し、スキャンを始めるメモリーアドレスにする



5 [V/MENT] キーを押し、Hiを表示させる

6 セレクターを回し、スキャンを終わるメモリーアドレスにする

7 [F] キーを押した後、[V/MENT] キーを押す
(表示部の一が点滅から点灯に変わります。)

[F]

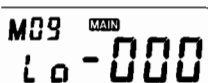
8 終了するには、[CLRSET] キーを押す

■アドレスの範囲を指定・変更するには

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

[F]

2 セットモード番号を09にし、Loを表示させる



3 [F] キーを押した後、[V/MENT] キーを押す
(表示部の一が点灯から点滅に変わります。)

[F]

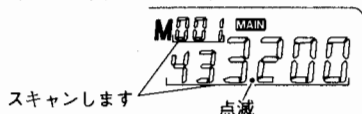
アドバイス

- ◆手順2で[V/MENT]キーを押すと、HiとLoに書き込まれているメモリーアドレスを確認することができます。(キーを押すたびに、交互に表示されます。)
- ◆手順4、手順6で、ファンクションモードの状態にしてセレクターを回すと、10アドレスステップで変えることができます。
- ◆メモリーアドレスの範囲を指定するときは、メモリーされていないアドレスも表示されます。また、スキャン中は、指定した範囲内にメモリーされているアドレスのみが表示されます。

■スキャンするには

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 [MS MSM] キーを押す
(スキャンが開始されました。)



3 終了するには、[MS MSM] キーを押す

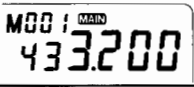

アドバイス

- ◆指定したメモリーの範囲に1つもメモリーされていないときは、手順2でブツ音がします。
- ◆手順2で、[F]キーを押した後、[MS MSM]キーを押すと、プログラムメモリースキャンにおいて、メモリースキャンメモリーを行うことができます。このとき、指定したメモリーアドレスの範囲内に▼が指定されたメモリーが無いときは、ブツ音が生じてスキャンを開始しません。

指定したメモリー周波数をスキャンするには（メモリースキャンメモリー）

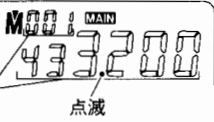
スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

■アドレスを指定するには

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[V/M ENT]** キーを押し、メモリーモードにする
- 3 セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーで、スキャンしたいメモリーアドレスにする

- 4 **[F]** キーを1秒以上押した後、**[MS MSM]** キーを押す **[FB]**
- 5 Mの上に▼が表示されたことを確かめる

- 6 他のメモリーを続けて指定するときは、手順3～5を繰り返す
- 7 終了するには、**[V/M ENT]** キーを押す

アドバイス
 ◆ 指定を解除するには、手順4で▼の表示を消してください。

■スキャンするには


- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[F]** キーを押した後、**[MS MSM]** キーを押す **[F]**
- 3 指定したメモリーのスキャンが始まることを確かめる

- 4 終了するには、**[MS MSM]** キーを押す

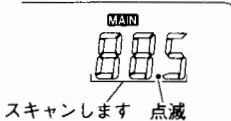
アドバイス

- ◆ 手順2で、▼が指定されたメモリーが無いときはブザー音がします。
- ◆ メモリースキャンメモリーは、メモリースキャン、ブロックメモリースキャン、プログラムメモリースキャンで行うことができます。

トーン周波数をスキャンするには（トーンスケルチスキャン）

トーン周波数をスキャンします。受信周波数は変わりません。
 このスキャンを行うには、オプションのトーンスケルチユニット CTN5700が必要です。

- 1 メインバンドを選ぶ
- 2 スキャンを行う周波数にする
- 3 **[F]** キーを押した後、**[PO T.SQ]** キーを2回押し、表示をTSQにする

- 4 **[F]** キーを1秒以上押した後、**[PO T.SQ]** キーを押す
 (トーン周波数が表示されます。) **[FB]**
- 5 **[SCN P.S]** キーを押す
 (スキャンが開始されました。)



- 6 相手局のトーン周波数と一致すると、スキャンが停止してスケルチが開きます
- 7 終了するには、**[SCN P.S]** キー または **[CLR SET]** キーを押す

アドバイス

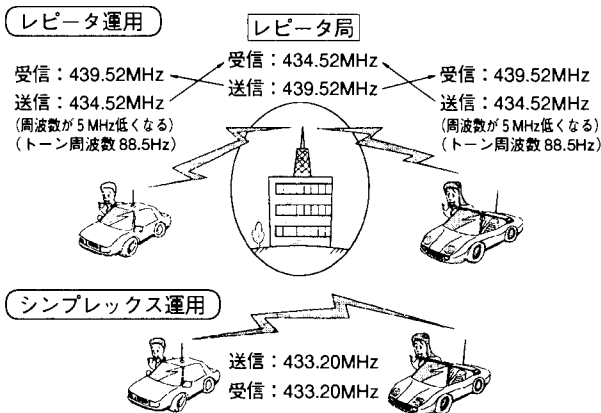
- ◆ 手順3で表示がTの状態では、トーンスケルチスキャンは行いません。必ず表示をTSQにしてください。
- ◆ トーンスケルチスキャンは、メモリー周波数、コール周波数でも行うことができます。手順2でメモリー周波数またはコール周波数を呼び出した状態にし、手順3以降を行ってください。
- ◆ 手順4の状態、セレクターを回すか、**[UP]** または **[DOWN]** キーを押すと、手動で相手局のトーン周波数を調べることができます。

レピータを使うには

レピータ運用について	44
レピータを使うには（オートレピータモード）	44
オートレピータモードを解除するには	44
手動でレピータモードを設定するには	44
レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには（リバース）	45
レピータ運用のオフセット周波数、トーン周波数を変えるには	45

レピータ運用について

- レピータ局(自動中継局)を使用して交信を行うことをレピータ運用といいます。また、この運用ができる状態にあるときを「レピータモード」といいます。
- レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信することができます。
- レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差を「オフセット周波数」といいます。430MHz帯では、オフセット周波数は5MHzです。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数がオフセット周波数分だけ低くなります。
- レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5Hz)があるときに使用できます。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に88.5Hzのトーン信号が出ます。



オートレピータモードを解除するには

- 1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す
 - 2 セレクターを回し、セットモード番号を00にする
-
- 3 [V/M ENT] キーを押し、表示をonからoFにする
 - 4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

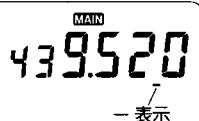
アドバイス

- ◆ 初期状態では、onに設定されています。
- ◆ この機能は、430MHz帯のみの機能です。

レピータを使うには (オートレピータモード)

オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数(439MHz帯)に合わせると、自動的にレピータモードを設定する機能です。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 レピータ局の周波数に合わせる
- 3 表示部に-が表示されているのを確かめる

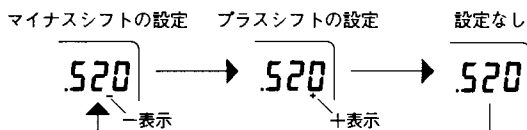


- 4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ
- 5 送信するには、[PTT] スイッチを押しながら、マイクに向かって話す

手動でレピータモードを設定するには

手動でレピータモードの設定および解除ができます。また、この機能を使うと、受信周波数からオフセット周波数分、送信周波数をシフトさせることができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 セレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押して、レピータ局の周波数に合わせる
- 3 [F] キーを押した後、[MYRPT] キーを押し、レピータモード(シフト方向)の設定を行う



アドバイス

- ◆ オフセットした周波数が、アマチュアバンド外になる場合は、送信できません。このとき、[PTT] スイッチを押すとOFFが表示されます。

レピータ運用時に相手局の直接波を受信するには (リバース)

レピータモードのとき、リモコンマイクの [SQL OFF] キーを押すと、一時的に受信周波数がオフセット周波数分低くなり、相手局の直接波(レピータを介さない信号)を受信できるか確かめることができます。もし、直接波を受信できるときは、レピータを使わない交信を試してみてください。また、この機能を解除し、レピータモード中も通常の [SQL OFF] キーとして動作させることもできます。

■リバースするには

1 セレクターを回すか、 [UP] または [DOWN] キーを押して、レピータ局の周波数に合わせ、レピータモードにする

2 リモコンマイクの [SQL OFF] キーを一度押す
(表示部の周波数がオフセット周波数分低くなり、スケルチが開きます。)

MAIN
434.520
7
点減

3 終了するには、もう一度リモコンマイクの [SQL OFF] キーを押す

アドバイス

◆手順2で、リバースした周波数がアマチュアバンド外になる場合はブツ音がし、この機能は動きません。

■リバース機能を解除するには

1 [F] キーを押した後、 [CLR SET] キーを押す

2 セレクターを回し、セットモード番号を27にする

27 MAIN
59r. 00

3 [V/M ENT] キーを押し、表示を on から of にする

4 終了するには、 [CLR SET] キーを押す

アドバイス

◆初期状態では、on に設定されています。

◆この機能が on に設定されている状態で、リバースしないでスケルチをオフにする場合は、スケルチツマミを反時計方向へ回して、スケルチを開いてください。

レピータ運用のオフセット周波数、トーン周波数を変えるには

初期状態では、レピータ用トーン周波数は88.5Hz、オフセット周波数は430MHz帯が5MHz、144MHz帯が600kHz、50MHz帯が0MHzに設定されています。本機は、将来これ以外のトーン周波数やオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するため、この設定を変更することができます。

1 メインバンドを選ぶ

2 周波数帯を選ぶ

3 [F] キーを1秒以上押した後、 [MY RPT] キーを押す
(レピータ用トーン周波数が表示されます。)

MAIN
88.5

FB

4 セレクターを回し、表示を88.5から変更する

5 ファンクションプリnkモードで、 [MY RPT] キーを押す
(オフセット周波数が表示されます。)

MAIN
05.000

FB

6 セレクターを回し、表示を05.000から変更する

7 終了するには、ファンクションプリnkモードで、 [MY RPT] キーを押す

FB

アドバイス

◆本機は、標準で39波のトーンエンコーダーを内蔵しています。
トーン信号の周波数 (Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5
85.4	88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5
107.2	110.9	114.8	118.8	123.0	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7	162.2	167.9
173.8	179.9	186.2	192.8	203.5	210.7	218.1
225.7	233.6	241.8	250.3	計39種類		

◆トーンを送出しないようにすることができます。この場合は、手順4でOFFに設定してください。

◆レピータ用トーン周波数は、VFO状態、メモリー周波数、コール周波数、それぞれ別々に設定することができます。手順2で、変更したいVFO状態、メモリー周波数、またはコール周波数を呼び出してください。

こんな使いかたもできます

バンドの区分を無くすには	48
間違って送信しないためには (PTTロック)	48
一定以上の強い信号だけを受信したいとき (RFスケルチ)	48
VHFバンドとUHFバンドの周波数を同時に変えるには (VFOリンク) ..	49
表示部の明るさを変えるには (ディマー)	49
ビープ音の大きさをを変えるには	49
PTTを放したときにピッ音を鳴らすには (スタンバイビープ)	50
送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)	50
受信音を自動的に小さくするには (オートミュート)	50
送信時にサブバンドの受信音を止めるには (サブバンドミュート)	50
電源を自動的に切るには (オートパワーオフ)	51

VHFバンドとUHFバンドの周波数を同時に変えるには (VFOリンク)

両バンドのVFO周波数を、同時に変えることができます。この操作をVFOリンクと呼びます。

1 VHFバンド、UHFバンドとも、VFO状態にする

2 メインバンドを選ぶ

3 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



4 セレクターを回し、セットモード番号を16にする

16 MAIN
L 17. 0F

5 [V/MENT] キーを押し、表示をoFからonにする
(表示部に∞が点灯します。)

6 [CLRSET] キーを押し、VFO状態に戻る

7 メインバンドのセレクターを回すか、[UP] または [DOWN] キーを押すと、両バンドの周波数が同時に変わる

145.200 433.200
∞

アドバイス

- ◆初期状態では、oFに設定されています。
- ◆この機能を解除するには、手順4で表示をoFにしてください。
- ◆片方のバンドをレピータのアップリンク周波数(434MHz台)に、もう一方のバンドをレピータのダウンリンク周波数(439MHz台)に合わせて、VFOリンク機能を設定すると、アップリンクとダウンリンクを対にして同時に受信することができます。
- ◆メインバンドのセレクターを回すと、メインバンドで設定されている周波数ステップで、両バンドの周波数が連動して変化します。また、サブバンドのセレクターを回すと、サブバンドで設定されている周波数ステップで、サブバンドの周波数のみが変わります。

表示部の明るさを変えるには (ディマー)

表示部の明るさを5段階に変えることができます。

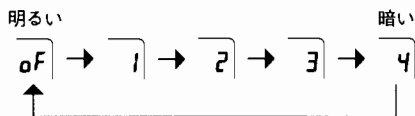
1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



2 セレクターを回し、セットモード番号を03にする

03 MAIN
d 17.0F

3 [V/MENT] キーを押し、表示をoFから変更する



4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

ビープ音の大きさをを変えるには

設定が完了したときや、操作を間違ったときなどに鳴るビープ音の大きさを変えたり、消すことができます。

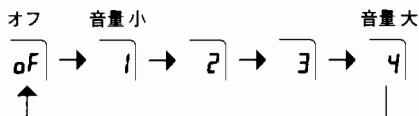
1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



2 セレクターを回し、セットモード番号を04にする

04 MAIN
b P L E . 2

3 [V/MENT] キーを押し、表示を2から変更する



4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、oFに設定されています。
- ◆手順3で設定を4にした場合、表示部のランプは消灯した状態になります。

アドバイス

- ◆初期状態では、2に設定されています。

PTTを放したときにピッチ音を鳴らすには (スタンバイビープ)

この機能を使うと、**[PTT]** スイッチを放したときに、ピッチ音がしてから受信状態になります。また、このピッチ音は相手局にも聞こえ受信状態に入ったことを知らせます。

1 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

F

2 セレクターを回し、セットモード番号を 17 にする

17 MAIN
StbP.oF

3 **[V/MENT]** キーを押し、表示を oF から変更する

オフ 音程高 音程低
oF → 1 → 2 → 3

4 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

5 **[PTT]** スイッチを放した直後、ピッチ音が鳴ることを確かめる

アドバイス

- ◆初期状態では、oF に設定されています。
- ◆手順 3 で設定する値によって、ピッチ音の周波数が変わります。

送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)

送信が連続して一定の時間以上続いたとき、自動的に送信を停止させることができます。送信が自動的に停止するとき、警告音が鳴ります。

1 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

F

2 セレクターを回し、セットモード番号を 30 にする

30 MAIN
tot. oF

3 **[V/MENT]** キーを押し、表示を oF から変更する

オフ 3分 5分 15分
oF → 3 → 5 → 15

4 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、oF に設定されています。
- ◆長時間の誤送信を防ぐため、なるべく oF 以外に設定してください。

受信音を自動的に小さくするには (オートミュート)

この機能を使うと、他のバンドが信号を受信している間、オートミュートを設定したバンドの音量を自動的に小さく (約20dB) することができます。

1 メインバンドを選ぶ

2 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

F

3 セレクターを回し、セットモード番号を 14 にする

14 MAIN
At-m.oF

4 **[V/MENT]** キーを押し、表示を oF から on にする
(表示部に MUTE が点灯します。)

5 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、oF に設定されています。
- ◆この機能を解除するには、手順 4 で表示を oF にしてください。

送信時にサブバンドの受信音を止めるには (サブバンドミュート)

この機能を使うと、メインバンドで送信している間、サブバンドの受信音を自動的に消すことができます。

1 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

F

2 セレクターを回し、セットモード番号を 15 にする

15 MAIN
Subm.oF

3 **[V/MENT]** キーを押し、表示を oF から on にする

4 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

アドバイス

- ◆初期状態では、oF に設定されています。
- ◆この機能を解除するには、手順 3 で表示を oF にしてください。
- ◆この機能が on のときに、**[PTT]** スイッチを押すと、サブバンドの表示部に MUTE が点滅します。

電源を自動的に切るには（オートパワーオフ）

設定した時間、送信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。この機能を使うと、バッテリーから直接電源を取っている場合、電源の切り忘れによるバッテリーの過放電を防止することができます。

1 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

[F]

2 セレクターを回し、セットモード番号を 31 にする

31 ^{MAIN}
APO. oF

3 [V/M ENT] キーを押し、表示を oF から変更する

オフ 3時間 6時間 9時間
oF → 3 → 6 → 9

4 終了するには、[CLR SET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、oF に設定されています。
- ◆ 手順 3 で oF 以外に設定すると、表示部に APO が点灯します。

こんな使いかたもできます

オプションを使って

リモコンマイクCMP883を使って（ダイレクト入力）	54
DTMFユニットCTD5700を使って	54
コードスケルチ用のコードを設定するには	55
コードスケルチを使うには	55
ページング用の自分の個別コードを設定するには	55
ページング用の話したい相手のコードを設定するには	56
ページング用のグループコードを設定するには	56
ページングで呼び出すには	57
ページングで待ち受けするには	57
コードスケルチ・ページングが出るまでの時間を遅らせるには	58
ページングの呼び出し音の回数を変えるには	58
DTMFを使うには	58
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	58
DTMFコードをメモリーするには	59
メモリーしたDTMFコードを書き換えるには	59
メモリーしたDTMFコードを送出するには	60
メモリーしたDTMFコードを消去するには	60
DTMFコードの送出時間の間隔を変更するには	60
トーンスケルチユニットCTN5700を使って	61
トーンエンコーダー・トーンスケルチを使うには	61
トーンスケルチ運用のトーン周波数を変えるには	61
CTD5700・CTN5700を取り付けるには	62
オプションのケーブルを使って（CAW590～CAW593）	63

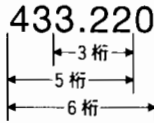
リモコンマイクCMP883を使って (ダイレクト入力)

数字キーを使って、周波数を直接入力することができます。

周波数のダイレクト入力には、

- 3桁入力 (1MHz台から10kHz台)
- 5桁入力 (100MHz台から10kHz台)
- 6桁入力 (100MHz台から1kHz台)

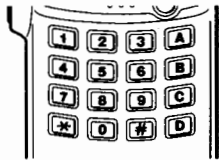
の3種類があり、初期状態では5桁入りに設定されています。



■周波数をダイレクト入力するには

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 入力する数字のキーを、100MHz台から入力する



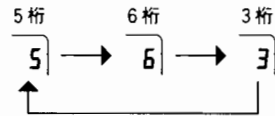
■3桁または6桁入力するには

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

2 セレクターを回し、セットモード番号を34にする



3 [V/M ENT] キーを押し、表示を5から変更する



4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、5 (桁) に設定されています。
- ◆ 5桁または6桁入りに設定すると、100MHz台からの入力が行えるので、周波数帯の移動が簡単に行えます。
- ◆ 5桁または6桁入りに設定し、VHFバンドで50MHz帯を入力するときは、最初に0キーを押してください。
- ◆ 入力できないキーを押すと、ブザー音がします。
- ◆ 送信中に16キーを押すと、DTMF信号を送出することができます。

(P.58)

DTMFユニットCTD5700を使って

DTMFユニットを本機に装着することで、特定の人や、グループを呼び出すことができます。このときに、ページングコードやコードスケルチのコードを呼び出す人に合わせます。

DTMFユニットCTD5700を装着していない場合、セットモード番号の20~26は表示されません。

コードスケルチとは

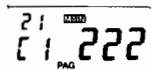
- 話したい人のコードに合わせ、呼び出します。呼び出された人は、コードスケルチが開いて音声が入ります。また、アラームは鳴らないため、すぐに話し始めることができます。

ページングとは

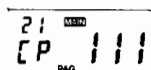
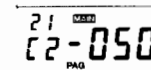
- 話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。呼び出された人は、表示部に呼び出した人の個別コードが表示され、アラームが鳴ります。このときに、コードメモリーのCPに、相手の個別コードが書き込まれます。

- グループを呼び出すときは、グループコードに合わせ、呼び出します。呼び出されたグループの人達は、表示部にグループコードが表示され、アラームが鳴ります。このときに、コードメモリーのCPに、相手の個別コードが書き込まれます。

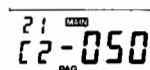
個別コードで呼び出し
個別コード C0 111



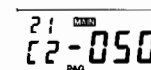
グループコードで呼び出し
個別コード C0 111
グループコード C2 050



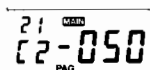
個別コード
C0 222



グループコード
C2 050
個別コード
C0 222


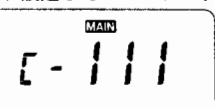


グループコード
C2 050
個別コード
C0 333



グループコード
C2 050
個別コード
C0 444


コードスケルチ用のコードを設定するには

- 1 メインバンドを選ぶ
- 2 [F] キーを1秒以上押しした後、[CAL.CSQ] キーを押す

- 3 セレクターを回し、設定したいコードにする

- 4 終了するには、ファンクションブリンクモードで、[CAL.CSQ] キーを押す

アドバイス

- ◆手順3で、セレクターを押しながら回すと、10の桁より上を変えることができます
- ◆オプションのDTMFユニットが装着されていない場合、手順2でブツ音がします。

コードスケルチを使うには




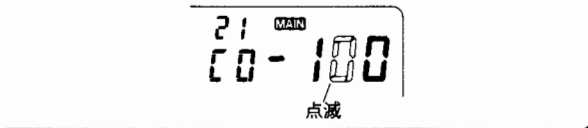
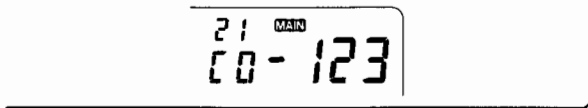
- 1 メインバンドを選ぶ
- 2 周波数帯を選ぶ
- 3 [F] キーを押した後、[CAL.CSQ] キーを押す

- 4 表示部にCSQが表示されたことを確かめる
- 5 [PTT] スイッチを押すと、相手にコードが送信される
- 6 相手が同じコードで送信すると、コードスケルチが開く

アドバイス

- ◆オプションのDTMFユニットが装着されていない場合、手順3でブツ音がします。

ページング用の自分の個別コードを設定するには

ページングで話したい相手呼び出ししたり、また相手から呼び出される時に、個別コードが必要です。自分の個別コードは、専用のメモリアドレスC0にメモリーします。

- 1 メインバンドを選ぶ
- 2 [F] キーを押した後、[CLR.SET] キーを押す

- 3 セレクターを回し、セットモード番号を21にする

- 4 [V/MEN.T] キーを押し、自分の個別コードメモリーにする (自分の個別コードは、C0に設定します。)
- 5 [F] キーを押した後、[V/MEN.T] キーを押す (表示部が1桁目の入力待ちになります。)

- 6 セレクターを回し、1桁目を決めた後、[V/MEN.T] キーを押す

- 7 手順6を繰り返し、2桁目、3桁目のコードを入力する (3桁目が入力された時点で、コードが設定されます。)

- 8 終了するには、[CLR.SET] キーを押す

ページング用の話したい相手のコードを設定するには

ページングで話したい相手呼び出す前に、相手のコードをメモリーする必要があります。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

[F]

3 セレクターを回し、セットモード番号を21にする

4 [V/M ENT] キーを押し、相手の個別コードメモリーにする
(相手の個別コードは、C1～C6に設定します。)

5 [F] キーを押した後、[V/M ENT] キーを押す
(表示部が1桁目の入力待ちになります。)

[F]

6 セレクターを回し、1桁目を決めた後、[V/M ENT] キーを押す

7 手順6を繰り返し、2桁目、3桁目のコードを入力する
(3桁目が入力された時点で、コードが設定されます。)

8 終了するには、[CLR SET] キーを押す

ページング用のグループコードを設定するには

1 メインバンドを選ぶ

2 [F] キーを押した後、[CLR SET] キーを押す

[F]

3 セレクターを回し、セットモード番号を21にする

4 [V/M ENT] キーを押し、グループコードにしたいメモリーを呼び出す
(グループコードは、C1～C6に設定できます。)

5 [POT.SQ] キーを押す
(コード表示の前に一が表示され、グループコードが設定されました。)

6 終了するには、[CLR SET] キーを押す

アドバイス

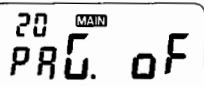
- ◆ グループコードが設定されていない場合、そのコードを受信しても呼び出されません。
- ◆ CPにはグループコードを設定することができません。

ページングで呼び出すには

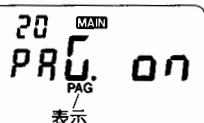
1 メインバンドを選ぶ

2 **[F]** キーを押した後、**[CLR SET]** キーを押す

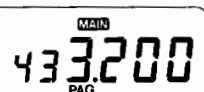
3 セレクターを回し、セットモード番号を20にする



4 **[V/M ENT]** キーを押し、表示をoFからonにする
(表示部にPAGが点灯します。)

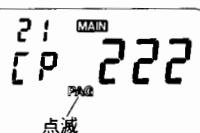


5 **[CLR SET]** キーを押す



6 **[PTT]** スイッチを押し、送信する

7 相手が答えると呼出音が鳴る
(表示部のPAGが点灯から点滅に変わり、相手の個別コードが表示されます。)



アドバイス

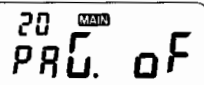
- ◆この機能を解除するには、手順4で表示をoFにします。
- ◆何かキーを押すと、呼出音を途中で止めることができます。
- ◆コードスケルチ(CSQ)が設定されている場合、手順4で表示をonにすることはできませんが、ページングは動きません。コードスケルチを解除すると、ページングが働きます。
- ◆手順6で送出されるコードは、セットモード番号の21にしたときに表示されるコードです。
- ◆手順6でグループコードを送出すると、手順7で相手は同じコードで答えてきます。
- ◆手順7の後、**[PTT]** スイッチを押すと、相手のコードが送出されます。
- ◆手順7で、相手の個別コードが完全に受信できなかったときは、Cの代わりにEが表示されます。

ページングで待ち受けするには

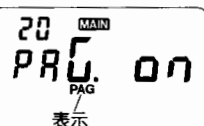
1 メインバンドを選ぶ

2 **[F]** キーを押した後、**[CLR SET]** キーを押す

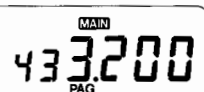
3 セレクターを回し、セットモード番号を20にする



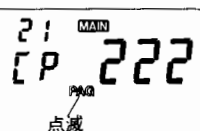
4 **[V/M ENT]** キーを押し、表示をoFからonにする
(表示部にPAGが点灯します。)



5 **[CLR SET]** キーを押す



6 相手から呼ばれると、呼出音が鳴る
(表示部のPAGが点灯から点滅に変わり、相手の個別コードまたはグループコードが表示されます。)



アドバイス

- ◆この機能を解除するには、手順4で表示をoFにします。
- ◆何かキーを押すと、呼出音を途中で止めることができます。
- ◆コードスケルチ(CSQ)が設定されている場合、手順4で表示をonにすることはできませんが、ページングは動きません。コードスケルチを解除すると、ページングが働きます。
- ◆手順6で、相手の個別コードが完全に受信できなかったときは、Cの代わりにEが表示されます。

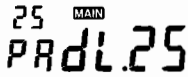
コードスケッチ・ページングが出るまでの時間を遅らせるには

レピータを使ってページング信号を送るとき、信号の頭切れを防ぐために、信号が出るまでの時間を遅らせることができます。初期状態では、約250ミリ秒です。これを、約450ミリ秒または約850ミリ秒に変更できます。また、UPを選択すると約3秒になり、3桁のウェイクアップ機能を持った無線機を呼び出すことができます。

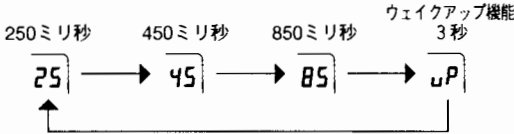
1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



2 セレクターを回し、セットモード番号を25にする



3 [V/MENT] キーを押し、表示を25から変更する



4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

ページングの呼び出し音の回数を変えるには

ページングで呼び出されたときのピープ音の回数を、7回から1回に変えることができます。

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す



2 セレクターを回し、セットモード番号を22にする



3 [V/MENT] キーを押し、表示を7から1にする

4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

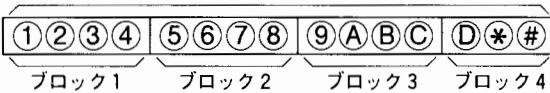
◆初期状態では、7に設定されています。

DTMFを使うには

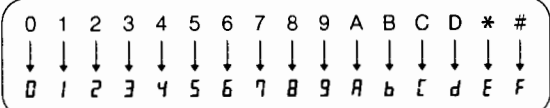
本機では、DTMF信号の送出方法が2通りあります。第1の方法は、PTTスイッチを押しながら、オプションのリモコンマイクCMP883の16キーを押す方法です。第2の方法は、DTMFコードをメモリーし、そのコードを送出する方法です。

■DTMFコードとメモリーについて

- 最大15桁のDTMF信号を、DTMF専用メモリーにメモリーできます。
- DTMF専用メモリーは、VHFバンドとUHFバンドにそれぞれ6個づつあります。
- 1個のDTMF専用メモリーに、最大15桁まで書き込めます。
- 15桁のコードは、4つのブロックにわけて表示されます。



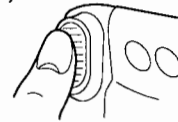
- 書き込めるコードは、0～9、A～D、*、#です。コードは、次のように表示部に表示されます。



PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには

オプションのリモコンマイクCMP883を使用すると、送信しながらDTMF信号を直接送出することができます。

1 [PTT] スイッチを押す



2 手順1の状態のまま、0～9、*、#、A～Dのキーを押す

アドバイス

◆DTMF信号は、キーを押している間だけ送出されます。

DTMFコードをメモリーするには

1 メインバンドを選ぶ

2 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

3 セレクターを回し、セットモード番号を24にする

24 MAIN
0-.-.-
点減

4 [V/MENT] キーを押し、メモリーするアドレスにする
(アドレスは、C0～C5です。)5 [F] キーを押した後、[V/MENT] キーを押す
(表示部が1桁目の入力待ちになります。)

24 MAIN
0-.-.-
点減

6 セレクターを回し、1桁目を決めた後、[V/MENT] キーを押す

24 MAIN
0-1.-.-
点減

7 手順6を繰り返し、2桁目から15桁目のコードを入力する
(15桁目のコードが入力された時点でコードが設定され、ブロック1が表示されます。)

24 MAIN
0-1234

8 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 入力するコードが15桁より短いときは、[CLRSET] キーを押すと、それまでのコードが設定され、再びブロック1が表示されます。このとき、手順6で点減していた桁は設定されません。
- ◆ メモリーしたDTMFコードを確認するには、手順1～4を行います。次に、[FOTSO] キーを押すと、各ブロックの内容を確認することができます。

メモリーしたDTMFコードを書き換えるには

DTMF専用メモリーに入っているDTMF信号を変更することができます。

1 メインバンドを選ぶ

2 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

3 セレクターを回し、セットモード番号を24にする

4 [V/MENT] キーを押し、変更するアドレスにする

5 [F] キーを押した後、[V/MENT] キーを押す
(表示部が1桁目の入力待ちになります。)

24 MAIN
0-234
点減

6 セレクターを回し、1桁目を変更した後、[V/MENT] キーを押す
(表示部が2桁目の入力待ちになります。)

24 MAIN
0-234
点減

7 手順6を繰り返し、2桁目から15桁目のコードを入力する
(15桁目のコードが入力された時点でコードが設定され、ブロック1が表示されます。)

24 MAIN
0-AbCd

8 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 手順6で、変更しない桁は[V/MENT] キーを押すと、次の桁へ移ります。
- ◆ 書き換えるコードが15桁より短いときは、途中で[CLRSET] キーを押すと、それまで入力したコードが設定され、再びブロック1が表示されます。このとき、手順6で点減していた桁は設定されません。

メモリーしたDTMFコードを送出するには

1 メインバンドを選ぶ

2 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

[F]

3 セレクターを回し、セットモード番号を24にする

24 MAIN
0- 1234

4 **[V/M ENT]** キーを押し、送りたいアドレスにする

5 セレクターを回し、セットモード番号を23にする

23 MAIN
dt m. of

6 **[V/M ENT]** キーを押し、表示をoFからonにする
(表示部にDTMFが点灯します。)

MAIN
433.200
DTMF
表示

7 **[CLRSET]** キーを押す

8 **[PTT]** スイッチを押しながら、**[SQL OFF]** キーを押す
(DTMFコードが送られます。)

アドバイス

- ◆この機能を解除するには、手順5で表示をoFにしてください。
- ◆送出手続のコードのアドレスを変更するときは、手順1～4を行ってください。

メモリーしたDTMFコードを消去するには

1 メインバンドを選ぶ

2 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

[F]

3 セレクターを回し、セットモード番号を24にする

4 **[V/M ENT]** キーを押し、消去したいアドレスにする

5 **[F]** キーを押した後、**[V/M ENT]** キーを押す
(表示部が1桁目の入力待ちになります。)

24 MAIN
0- 234
点滅

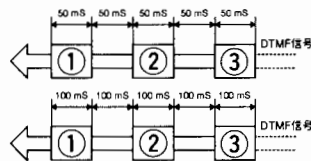
6 **[CLRSET]** キーを押す

24 MAIN
0- - - -

7 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

DTMFコードの送出時間の間隔を変更するには

通常、DTMF信号は50ミリ秒の間隔で送出されます。この間隔を100ミリ秒に変えることができます。



1 **[F]** キーを押した後、**[CLRSET]** キーを押す

[F]

2 セレクターを回し、セットモード番号を26にする

26 MAIN
dt SP. 5

3 **[V/M ENT]** キーを押し、表示を5から10にする

4 終了するには、**[CLRSET]** キーを押す

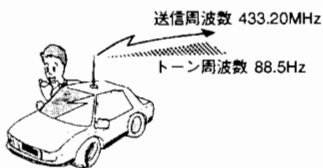
アドバイス

- ◆初期状態では、5に設定されています。
- ◆この機能は、コードスケルチ・ページングで共通です。

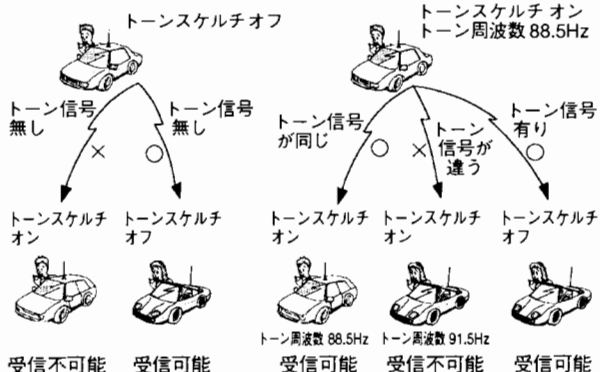
トーンスケルチユニットCTN5700を使って

オプションのトーンスケルチユニットCTN5700を本機に取り付けることで、送信したときにトーン信号が同時に出ます。これにより、トーンエンコーダーとトーンスケルチが使えます。

- トーンエンコーダーは、送信するときにトーン信号が出ます。



- トーンスケルチは、送信するときにトーン信号が出ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じでない音声がありません。



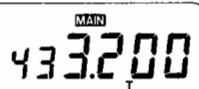
トーンエンコーダー・トーンスケルチを使うには

1 メインバンドを選ぶ

- 2 [F] キーを押した後、[POT.SQ] キーを押す
トーンエンコーダーを使うには、表示をTにする
トーンスケルチを使うには、表示をTSQにする

トーンエンコーダー表示

トーンスケルチ表示



アドバイス

- ◆ レビータモードが設定されているときに、この機能を設定した場合、レビータ用トーンは送出されません。トーンエンコーダーまたはトーンスケルチで設定したトーンスケルチ用トーン周波数が送出されます。

トーンスケルチ運用のトーン周波数を変えるには

1 メインバンドを選ぶ

2 周波数帯を選ぶ

3 [F] キーを1秒以上押した後、[POT.SQ] キーを押す



[FB]

4 セレクターを回し、トーンスケルチ用トーン周波数を変更する



5 終了するには、ファンクションブリンクモードで、[POT.SQ] キーを押す

[FB]

アドバイス

- ◆ トーン信号の周波数 (Hz)

67.0	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2
110.9	114.8	118.8	123.0	127.3	131.8	136.5
141.3	146.2	151.4	156.7	162.2	167.9	173.8
179.9	186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3				

計38種類

- ◆ 初期状態は88.5Hzに設定されています。
- ◆ トーンスケルチ用トーン周波数は、VFO状態、メモリー周波数、コール周波数、それぞれ別々に設定することができます。手順2で、変更したいVFO状態、メモリー周波数、またはコール周波数を呼び出してください。

CTD5700・CTN5700を取り付けるには

本機にDTMFユニットCTD5700、およびトーンスケルチユニットCTN5700を取り付ける場合は、次の手順に従って正しく行ってください。

作業前のご注意

- CTD5700、CTN5700には、落下などの強い衝撃を加えないでください。破損する恐れがあります。
- CTD5700、CTN5700を無線機に着脱するときは、必ず無線機の電源コネクタを抜いてから行ってください。
- ユニットの着脱後、リセットを行う必要はありません。
- 取り付けおよびデビエーションの調整は、販売店または(株)スタンダードのサービスセンターで行うようおすすめします。

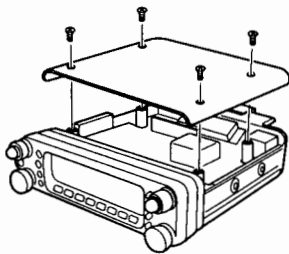
用意する工具

- プラスドライバー 2.6mm用
(ビスに合う大きさのもの)

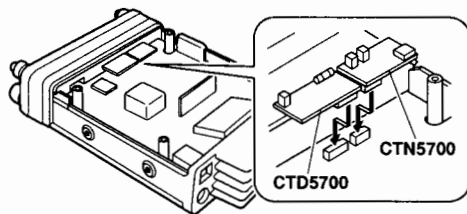
取り付け手順

1 電源を切る

2 表ボタのネジ(4本)を外した後、表ボタを外す



- 3 DTMFユニットCTD5700を取り付けるときは、基板上にCTD5700と印刷文字のあるコネクタに、まっすぐ差し込む
トーンスケルチユニットCTN5700を取り付けるときは、基板上にCTN5700と印刷文字のあるコネクタに、まっすぐ差し込む



- 4 手順2で外した表ボタを再びもとのように合わせ、外した4本のネジで止める
(これで取り付けが完了しました。)

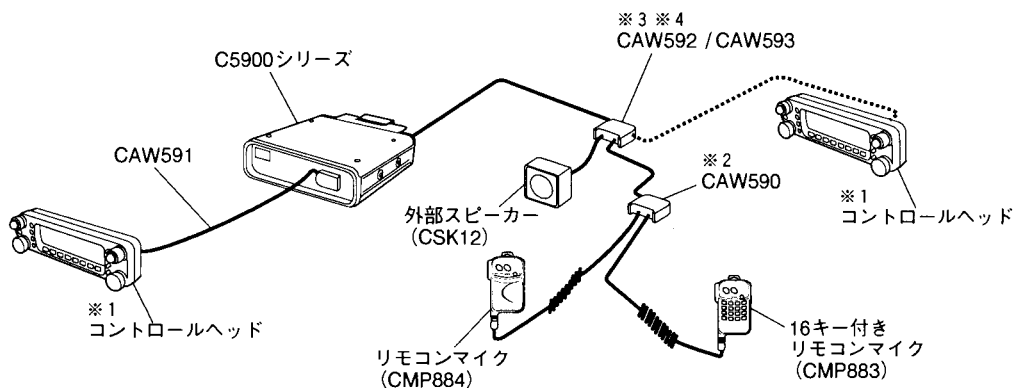
デビエーション調整

- CTD5700、CTN5700のデビエーションは、出荷時に調整されていますので、調整の必要はありません。
再調整する場合は、各ユニットに付属している取扱説明書の手順に従ってください。

オプションのケーブルを使って (CAW590~CAW593)

- オプションのデュアルマイクロホンケーブル(CAW590)、接続ボックス付き延長ケーブル(CAW592/CAW593)、セパレートケーブル(CAW591)を使うと、図のような組み合わせで使うことができます。延長ケーブルは、

8 m以内で接続することができます。但し、CAW592/CAW593の接続ボックスからコントロールヘッドまでの3mのケーブルは含みません。

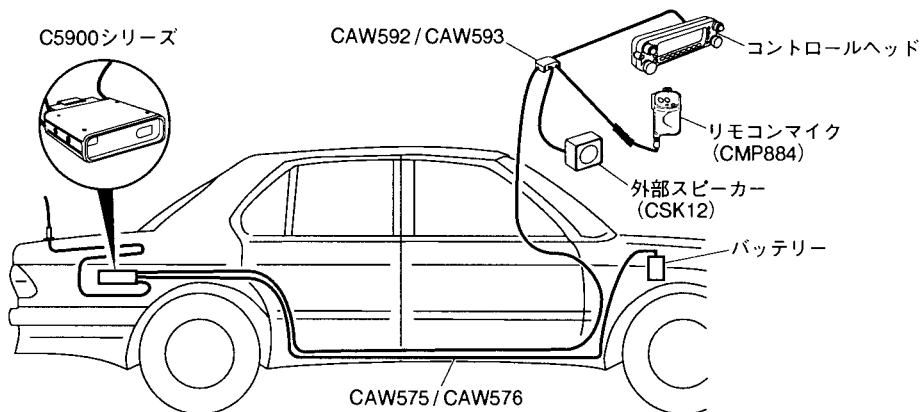


ご注意

- ※1 コントロールヘッドは、1つしか接続できません。
- ※2 CAW590にCMP883を接続する場合は、必ず MIC 1 の端子に接続してください。
- ※3 外部スピーカーを接続する場合は、C5900本体後部にある外部スピーカー端子のUHFバンド側に、CAW592/CAW593付属のダミープラグを差し込んでください。ダミープラグを差し込むと、本体内蔵のスピーカーを切ることができます。

- ※4 CAW592/CAW593に外部スピーカーを接続した場合、送信音にサブバンドの受信音が混じる場合があります。このときは、サブバンドミュート (P50) を on にすると、受信音の混入を防ぐことができます。

- 延長ケーブルやセパレートケーブルを使って、本体をトランクの中などに入れることができます。



アドバイス

- ◆ 本体をトランクの中などに入れる場合。オプションの延長電源ケーブルCAW575(長さ5m)や、中継電源ケーブルCAW576(長さ3m)を利用されると便利です。

パケット通信を行うには

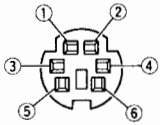
パケット通信について	66
1200bpsパケット通信について	66
9600bps高速パケット通信について	67
1200bpsと9600bpsを切り替えるには	67
パケット通信で受信するバンドを選ぶには (パケットバンド)	67

パケット通信について

本機には、1200bps (AFSK)、9600bps (G3RUH、GMSK)用のパケット専用端子が装備されており、従来の1200bpsに加え、9600bpsの高速パケット通信を手軽に楽しむことができます。

● TNCとの接続について

本機のパケット専用端子は、6ピンミニDINジャックを使用しています。TNCとの接続は、以下を参考にして行ってください。



- ① TX-DATA (1200bps、9600bps)
- ② GND
- ③ PTT
- ④ RX-DATA (9600bps)
- ⑤ RX-DATA (1200bps)
- ⑥ SQL

① TX-DATA 入力端子

1200bps、9600bps共用の送信データ入力端子です。1200bpsと9600bpsの切り替えは、「1200bpsと9600bpsを切り替えるには」(P67)を参照してください。

標準の入力レベルは、1200bpsが40mVp-p、9600bpsが2.0Vp-pです。

② GND

TX-DATA (1番ピン) およびRX-DATA (4、5番ピン)に使用する配線のGNDと接続します。

③ PTT 端子

パケット通信専用のPTTです。

GNDに接続することにより、送信状態になります。

④ RX-DATA 出力端子 (9600bps)

9600bps専用の受信データ出力端子です。出力電圧は、標準で約0.7Vp-p(10kΩ)です。

⑤ RX-DATA 出力端子 (1200bps)

1200bps専用の受信データ出力端子です。出力電圧は、標準で約0.7Vp-p(10kΩ)です。

⑥ SQL信号出力端子

スケルチ信号の出力端子です。

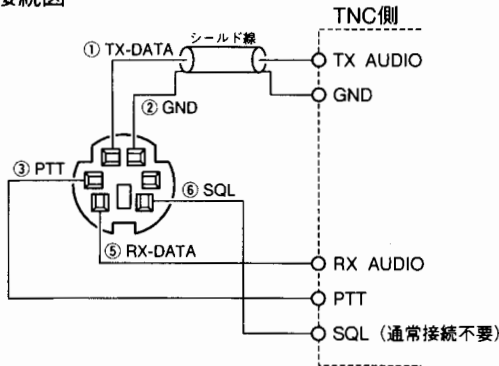
信号を受け、スケルチが開くと、Highレベル(+5V)が出力されます。

通常TNCはパケット通信以外の信号を受信しているときでも、パケットを送信してしまいますが、TNCにSQL信号出力を接続することにより、何らかの電波を受信してスケルチが開いている間は送信しなくなります。これにより、パケット通信以外との混信などを防ぐことができます。

1200bpsパケット通信について

1 接続図に従って、お手持ちのTNCと本機を接続する

接続図



4 TNCのTXDELAYを30~50に設定します。

2 TNCを送信状態にする

3 変調度計がある場合は、周波数変移が±3~4kHzになるように、TNCの出力レベル調整用ボリュームを調整します。変調度計がない場合は、受信モニター用無線機を用意し、TNCで変調したときの受信音が、マイクを使用して大声で変調したときの受信音より小さくなるように調整します。

アドバイス

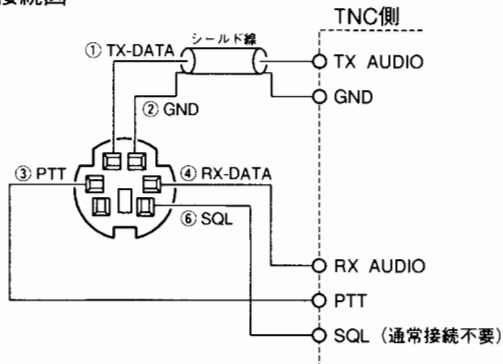
- ◆ パケット通信専用端子のPTT端子を使用して送信した場合、マイク端子に接続されているマイクからの変調はかかりません。
- ◆ 変調を深くし過ぎて過変調になると、着信率が低下しますので、ご注意ください。
- ◆ TNCに添付されている説明書もよくお読みください。
- ◆ 5番ピンのRX-DATA端子は、1200bps専用です。9600bpsでは使用できません。
- ◆ 1200bpsのパケット通信を運用するには、F2の免許が必要です。申請方法は、申請書の書きかた(P75)をご覧ください。

9600bps高速パケット通信について

本機には、9600bps(G3RUH方式、GMSK方式)用のパケット専用端子が装備されており、手軽に9600bpsの高速パケット通信を楽しむことができます。

1 接続図に従って、お手持ちのTNCと本機を接続する

接続図



2 G3RUH方式は、より高い通信の信頼性を得るため、16種類の送信オーディオ波形を選択できるようになっています。本機では、モデムの取扱説明書に従って、「TR8300」用を選択することをおすすめします。ただし、相手局の状況などにより、変更を必要とする場合もあります。

3 TNCのTX-Audioの出力が2 Vp-pに調整されている場合、変調度の調整は不要です。もし、調整の必要がある場合は、次の手順に従って行ってください。

- モデムのミュート回路をはずし、TX-Audioを出したままにします。
- PTT端子をケース等のGNDに接続し、送信状態にします。
- 変調度計がある場合は、周波数変移が約±3 kHzになるように、TNCの出力レベル調整用ボリュームを調整します。変調度計がない場合は、受信モニター用無線機を用意し、TNCで変調したときの受信音が、スケルチをオフにしたときのザーという雑音の半分程度になるように調整します。

4 TNCのTX DELAY を30~50に設定する

アドバイス

- ◆ パケット通信専用端子のPTT端子を使用して送信した場合、マイク端子に接続されているマイクからの変調はかかりません。
- ◆ 変調を深くし過ぎて過変調になると、着信率が低下しますので、ご注意ください。
- ◆ TNCに添付されている説明書もよくお読みください。
- ◆ 4番ピンのRX-DATA端子は、9600bps専用です。1200bpsでは使用できません。
- ◆ 9600bpsのパケット通信を運用するためには、F1の免許が必要です。申請方法は、申請書の書き方(75)をご覧ください。

1200bpsと9600bpsを切り替えるには

通信を行う速度によって、セットモードを切り替える必要があります。初期状態では、TX-DATA入力端子は1200bps用になっています。9600bpsのパケット通信を行うときは、または9600bpsから1200bpsに戻すときは、次の手順に従って切り替えてください。

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

[F]

2 セレクターを回し、セットモード番号を28にする

28 MAIN
bP5.120

3 [V/M ENT] キーを押し、表示を120から960にする
(表示部に9600が点灯します。)

1200bps 9600bps
120 → 960

4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、120 (1200bps) に設定されています。
- ◆ 通信速度が9600bpsに設定されているときは、表示部に9600が表示されます。

パケット通信で受信するバンドを選ぶには (パケットバンド)

初期状態では、メインバンドでパケットの送信・受信を行います。しかし、この機能を設定すると、メインバンドの設定に関係なく、パケットの受信バンドを固定することができます。

1 [F] キーを押した後、[CLRSET] キーを押す

[F]

2 セレクターを回し、セットモード番号を29にする

29 MAIN
PRC b. n

3 [V/M ENT] キーを押し、運用バンドを設定する

メインバンド UHFバンド VHFバンド
n → r → L

4 終了するには、[CLRSET] キーを押す

アドバイス

- ◆ 初期状態では、n (メインバンド) に設定されています。
- ◆ L (VHFバンド) または r (UHFバンド) を選択した場合、受信はメインバンドの設定に関係なく、パケットバンドで指定したバンドで行います。送信は、パケットバンドの設定に関係なく、メインバンドで行います。

ご参考に

故障とお考えになるまえに	70
セットモード機能の一覧	71
オプションの紹介	72
アフターサービスについて	72
定 格	73
運用にあたって	74
申請書の書きかた	75
送信機系統図	76
さくいん	77

故障とお考えになるまえに

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。

下記の項目をチェックしてもなおらない場合は、お買い上げになった販売店、またはお近くの(株)スタンダードの営業所、サービスセンターにご相談ください。

■ 電源が入らない

- ヒューズの確認
- DCコードの抜け
- DC IN 13.8V端子に過電圧(直流17V以上)が加わっている
DC IN 13.8V端子のプラグを抜き、DC電源の電圧を確認してください

■ 片方のバンドの周波数表示が出ない

- バンドオフ機能が設定されている

■ 表示部が暗い

- ディマー機能が暗く設定されている

■ 強い信号しか受信しない

- アンテナの整合が悪い
- アンテナが外れている、緩んでいる
- SQLツマミが時計方向に回し切っており
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる
- RFスケルチ機能がonに設定されている

■ スケルチが閉じない(ザーという音が出る)

- SQLツマミが反時計方向に回し切っており
- リモコンマイクによってスケルチオフになっている

■ キーやセレクターを操作しても受け付けられない

- キーロック機能が設定されている

■ 信号を受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる

■ 受信音が出ない

- SQLツマミを時計方向に回し過ぎている
- 外部スピーカーの接続を確認する
- 音量ツマミの位置を確認する
- サブバンドミュート機能がonに設定されている
- ページングモード、またはコードスケルチモードになっている
- トーンスケルチ動作中は、トーン周波数が一致しないと、受信音が聞こえません
- RFスケルチ機能がonに設定されている

■ 受信音が小さい

- 音量ツマミの位置を確認する
- オートミュートがonに設定されている

■ 送信出力が少ない

- アンテナとの整合が悪い
- Lowパワーに設定されている
- アンテナが外れている、緩んでいる
- 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる

■ 表示部に OFF が表示される

- シフトした周波数がアマチュアバンド外になっている

■ ビープ音がしない

- セットモードの04で、ビープ音がOFFに設定されている

■ メモリーの書き込み、変更、および消去ができない

- メモリープロテクト機能がonに設定されている

■ メモリーの書き込みができない

- すべてのメモリーアドレスに書き込まれている

■ スキャンしない

- SQLツマミが反時計方向に回し切っており
- スケルチオフになっている

■ メモリースキャンしない

- メモリーに1つも書き込まれていない
- プログラムメモリースキャンで、指定した範囲内に1つもメモリーされていない

■ プログラムスキャンしない

- スキャンを始める周波数と終わる周波数が設定されていない

■ 自動的に一が表示される

- 439MHz台で、オートレピータ機能が働いている

■ 自動的に十、一表示が消える

- レピータ周波数(439MHz台)以外になると、自動的に十、一を解除します

■ レピータ局をアクセスできない

- トーン周波数が異なっている
- レピータ局との距離が遠い
- オフセット周波数が異なっている
- シフト方向が+になっている
- レピータ局が動作していない

■ セレクターを回すと、両バンドの周波数が変わる

- VFOリンク機能がonに設定されている

■ ページング、コードスケルチが動作しない

- DTMFユニットCTD5700(オプション)が実装されていない
- 相手局とコードが一致していない
- グループコードが設定されていない
- 相手局または自局の電波が届かない

■ 表示部に E が表示される

- 相手局のコードを正しく受信できなかった

■ コードが設定できない

- DTMFユニットCTD5700(オプション)が実装されていない

■ DTMF信号が送出できない

- DTMFユニットCTD5700(オプション)が実装されていない

■ トーンスケルチが動作しない

- トーンスケルチユニットCTN5700(オプション)が実装されていない
- 相手局と離れすぎている
- 相手局とトーン周波数が異なっている

セットモード機能の一覧

C5900 SET MODE			
★: MYキー登録可能			
初期表示	機能	初期表示	機能
00 RtrP.on ★	オートレピータモードのON/OFF選択 (P44)	17 StbP.of ★	スタンバイビープの音程選択 (P50)
01 200 ★	周波数ステップの選択 (P22)	19 RtHm.of	ハイパーメモリーのオートモードON/OFF選択 (P33)
02 rot 1 ★	周波数ステップの1MHz/100kHzの切り替え (P23)	20 PRG. of ★	ページングモードのON/OFF選択 (P57)
03 dim.of ★	表示部の明るさ切り替え (P49)	21 [0-000	ページングのコード設定 (P55)
04 bPLE. 2 ★	ビープ音の音量切り替え (P49)	22 PRbP. 7 ★	ページングでの呼び出し音回数の選択 (P58)
05 SCSPH. 1 ★	スキャン速度の切り替え (P36)	23 dtm.of ★	DTMFモードのON/OFF選択 (P60)
06 tyPE. P ★	スキャンタイプの切り替え (P36)	24 0- - - -	DTMFのコード設定 (P59)
07 bRndon ★	バンド区分のON/OFF選択 (P48)	25 PRdL.25 ★	コードスケルチ・ページングの送出までの時間選択 (P58)
M08 SCnmAL ★	メモリスキャンのモード切り替え (P39)	26 dtSP. 5 ★	DTMFコード送出時間の間隔変更 (P60)
M09 Lo-000	プログラムメモリスキャンを行う範囲の設定 (P40)	27 59r. on ★	リバースのON/OFF選択 (P45)
M10 Pr.o. of ★	メモリープロテクトのON/OFF選択 (P29)	28 bPS.120 ★	パケット通信を行う速度の選択 (P67)
11- FL. of ★	キーロックのON/OFF選択 (P22)	29 PRCb. n ★	パケット通信を行うバンドの選択 (P67)
12 FLCH.of ★	キーロック時のセレクター使用可能ON/OFF選択 (P22)	30 tot. of ★	タイムアウトタイマーの時間選択 (P50)
13 PL. of ★	PTTロックのON/OFF選択 (P48)	31 APO. of ★	オートパワーオフの時間選択 (P51)
14 Rt-m.of ★	オートミュートのON/OFF選択 (P50)	32 rf. of ★	RFスケルチのON/OFF選択 (P48)
15 Subm.of ★	サブバンドミュートのON/OFF選択 (P50)	33 EE of	メモリーのバックアップ (P29)
16 Lin. of ★	VFOリンクのON/OFF選択 (P49)	34 inP. 5 ★	ダイレクト入力時の桁数選択 (P54)

◆ DTMFユニットCTD5700を装着していない場合、セットモード番号の20～26は表示されません。

オプションの紹介

CMP883	16キー付きリモコンマイク
CMU161	メモリーユニット(メモリー増設、およびメモリーバックアップ用)
CTD5700	DTMFユニット
CTN5700	トーンスケルチユニット
CMB5900	モバイルブラケット
CSK12	外部スピーカー
CAW590	デュアルマイクケーブル
CAW591	セパレートケーブル(長さ3m)
CAW592	接続ボックス付き延長ケーブル(長さ5m)
CAW593	接続ボックス付き延長ケーブル(長さ8m)
CAW575	延長電源ケーブル(長さ5m)
CAW576	中継電源ケーブル(長さ3m)

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターにご相談ください。

定 格

■一般仕様

周波数範囲

VHFバンド：

50 MHz帯	50.000 ~ 53.995 MHz
144 MHz帯	144.000 ~ 145.995 MHz
430 MHz帯	430.000 ~ 439.995 MHz

UHFバンド：

144 MHz帯	144.000 ~ 145.995 MHz
430 MHz帯	430.000 ~ 439.995 MHz

電波形式 F2 F3 (F1)

定格電圧 DC 13.8 V ± 15 %

消費電流

C5900B：	送信時	Hi	約 6.0 A
		Mid	約 4.0 A
		Low	約 2.5 A
	待ち受け時		約 0.6 A
C5900D：	送信時	Hi	約 11 A
		Mid	約 5.0 A
		Low	約 3.0 A
	待ち受け時		約 0.6 A

マイクロホン入力インピーダンス 600 Ω

スピーカー出力インピーダンス 4 Ω

空中線インピーダンス 50 Ω

使用温度範囲 -20 °C ~ +60 °C

周波数安定度 ± 4 ppm

アンテナコネクター M型(ケーブル付き)

接地方式 マイナス接地

本体寸法(突起物は除く) 140 × 40 × 173 mm
(幅 × 高さ × 奥行き)

重 量 1.2 kg

■受信部

受信方式 ダブルスーパーヘテロダイン方式

中間周波数

VHFバンド：

50MHz帯	1st IF	44.95 MHz (Upper)
	2nd IF	455 kHz (Lower)
144/430MHz帯	1st IF	44.95 MHz (Lower)
	2nd IF	455 kHz (Lower)

UHFバンド：

144/430MHz帯	1st IF	23.05 MHz (Lower)
	2nd IF	455 kHz (Lower)

受信感度 -16 dB μ (0.158 μV)
(12 dB SINAD : JAIA測定法)

選択度 12 kHz以上 (-6 dB)
24 kHz以下 (-60dB)

スケルチ開放感度 -18dB μ以下 (0.126 μV)

低周波出力 3.0 W (10%歪時)

0.5 μV入力時S/N比 26 dB以上

■送信部

送信出力

C5900B：		Hi	20 W
		Mid	10 W
		Low	2 W
C5900D：	50MHz帯	Hi	45 W
		Mid	10 W
		Low	3 W
	144MHz帯	Hi	50 W
		Mid	10 W
		Low	3 W
430MHz帯	Hi	35 W	
	Mid	10 W	
	Low	3 W	

変調方式 リアクタンス変調

最大周波数偏移 ± 5 kHz

スプリアス発射強度 -60 dB以下

変調歪 3 %以下 (70%変調時)

●本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

運用にあたって

無線局運用規則(昭和25年電波監理委員会規則第17号)第258条の2の規定に基づき、1,907.5kHzから10.25GHzまでのアマチュア局が動作することを許される周波数帯(アマチュアバンド)における「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別」が、郵政省告示(平成4年7月1日施行)で定められています。

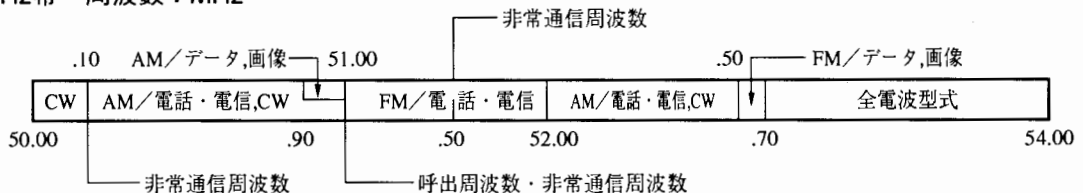
この使用区別は、多様なアマチュア無線の利用への対応、混信防止及び電波のより一層の有効利用を図る目的で、アマチュアバンドごとに使用可能な電波の型式に対応して周波数帯を設定しています。

使用区別

- (1) 50MHzから430MHzまでのアマチュアバンドにおけるアマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数は、使用区別図のとおりです。なお、144MHz帯及び430MHz帯においては、JARLのアマチュア局によりJARLのアマチュア業務の中継用無線局を遠隔操作する場合には、A1, A2, F2 及び F3 電波により全周波数を使用することができます。
- (2) 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」及び「呼出周波数」は、FM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。
- (3) 使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。
- (4) 430MHz帯は、国際電気通信条約附属無線通信規則第8条の周波数分配表に従って運用しているアマチュア業務以外の業務の無線局に妨害を与えない場合に使用できます。
- (5) この使用区別に違反して運用した場合は、電波法に基づき無線局の運用停止などの行政処分の対象となります。

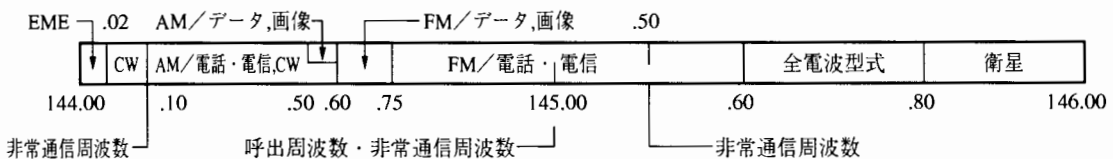
使用区別図

50MHz帯 周波数：MHz

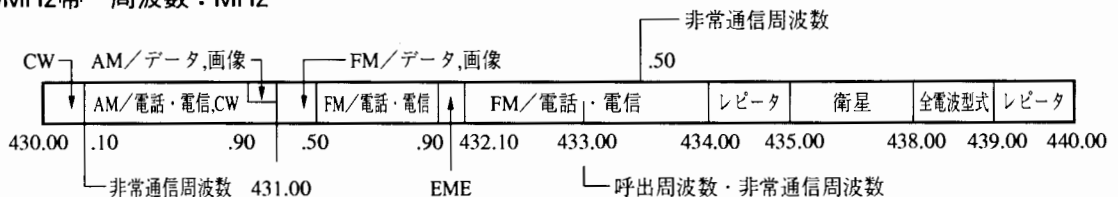


- 注1 50.01MHzの周波数は、JARLのアマチュア局(JA2IGY)のCWによる標識信号の送信を行う場合に限る。
 注2 50.00MHzから50.10MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのA2及びF1電波によるデータ伝送にも使用することができる。
 注3 51.00MHzから51.05MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのAM/電話・電信及びCWによる通信を行うことができる。

144MHz帯 周波数：MHz



430MHz帯 周波数：MHz



申請書の書きかた

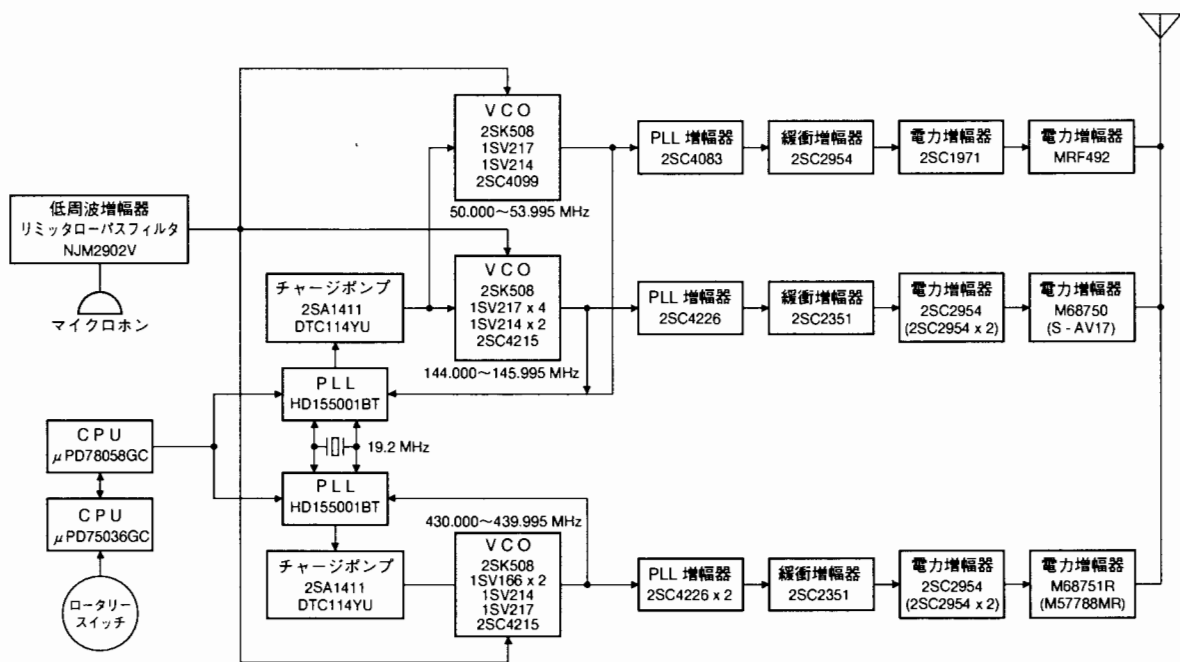
本機は、JARLの技術基準適合機です。「アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書発行願・保証認定願」および「工事設計書」に技術基準適合証明番号を記載することで、送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲、変調の方式、定格出力および終段管の記入を省略できます。

		C5900B	C5900D
①	技術基準適合証明番号	□□□□□□□□	□□□□□□□□
②	発射可能な電波の型式、周波数の範囲	※1 (F1) { 50MHz帯 F 2 { 144MHz帯 F 3 { 430MHz帯	※1 (F1) { 50MHz帯 F 2 { 144MHz帯 F 3 { 430MHz帯
	変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調
	定格出力	50MHz帯 20 W 144MHz帯 20 W 430MHz帯 20 W	50MHz帯 45 W 144MHz帯 50 W 430MHz帯 35 W
	終段管	名称個数 50MHz帯 MRF492 x 1 144MHz帯 M68750 x 1 430MHz帯 M68751R x 1	50MHz帯 MRF492 x 1 144MHz帯 S-AV17 x 1 430MHz帯 M57788MR x 1
	電圧	50MHz帯 13.4 V 144MHz帯 13.4 V 430MHz帯 13.2 V	50MHz帯 13.0 V 144MHz帯 12.8 V 430MHz帯 13.2 V
③	送信空中線の型式		
	その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している	

◆ 詳しくは、申請書に付属している「申請書の書き方」をご覧ください。

- ① 技術基準適合証明番号は、本機の背面に貼られている技適証明ラベルの番号です。
技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技術基準適合証明発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。
- ② 保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。
保証認定が必要な場合は、次の通りです。
1. JARL登録送信機およびその改造機
 2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
 3. 技適証明送信機に付属装置(TNC装置、FAX装置、RTTY装置など)、トランスバータまたはブースター等を付加した送信機
 4. 自作した送信機
- ※1：9600bpsの packets 通信(G3RUH、GMSK)を行う場合は、必ず「電波の型式」の欄に F1 を記入してください。(1200bpsの packets 通信(AFSK)のみを行う場合は、記載の必要はありません。)
- ③ 使用する送信空中線(アンテナ)の型式を記入してください。

送信機系統図



※ ()内は、C5900D

さくいん

1200bps	66	コール周波数	20	ブロックメモリスキャン	39
1 MHzスキャン	37	個別コード	55	ページング	57
9600bps	66	サブバンド	11	ポーズスキャン	36
AFSK	66	サブバンドミュート	50	ホールドスキャン	36
APO	51	周波数ステップ	22	マイキー	23
B	36	周波数帯	11	マニュアルモード	33
CSQ	55	受信	12	ミドルパワー	21
DTMF	60	使用区別図	74	メインバンド	11
F	Ⅲ, 14	シンプレックス	44	メモリー	26
FB	Ⅲ, 14	スキャン	36	メモリーアドレス	26
G3RUH	66	スキャンスピード	36	メモリスキャン	39
GMSK	66	スケルチ	10	メモリスキャンメモリー	41
H	36	スケルチオフ	10, 21	メモリーバックアップ	29
HM	32	スタンバイビープ	50	メモリープロテクト	29
L	21	セットモード	71	メモリーユニット	30
M	21	セレクター	14	メモリーユニット初期化	13
MAIN	11	設置	5	メモリーリセット	13
MUTE	11, 50	送信	13	呼出周波数	20
P	Ⅲ	送信出力	21	リセットモード	13
PAG	57	タイムアウトタイマー	50	リバース	45
PTT	17	ダイレクト入力	54	リモコンマイク	17
PTTロック	48	ディマー	49	レピータ	44
RFスケルチ	48	電源	10	レピータモード	44
T	61	電源ケーブル	6	レピータ用トーン周波数	45
TXメーター	15	トーンエンコーダー	61	ローパワー	21
TSQ	61	トーン周波数	45, 61		
VFO状態	12	トーンスケルチ	61		
VFOリセット	13	トーンスケルチスキャン	41		
VFOリンク	49	トーンスケルチ用トーン周波数	61		
アンテナ	8	ハイパーメモリー	32		
オートパワーオフ	51	ハイパーメモリー + VFOリセット	13		
オートミュート	50	ハイパワー	21		
オートモード	33	パケット通信	66		
オートレピータ	44	パケットバンド	67		
オールスキャン	37	バンドオフ	21		
オールリセット	13	バンド区分	48		
オプション	72	ビープ音	49		
オフセット周波数	45	ビジースキャン	36		
音量	10	ファンクションモード	14		
外部スピーカー	7	ファンクションプリリンクモード	14		
キーロック	22	プログラムスキャン	38		
グループコード	56	プログラムメモリスキャン	40		
コードスケルチ	55	ブロック	39		

販売元：株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号

製造元：日本マランツ株式会社

〒228-8505 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号

お問い合わせは

最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンターで承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。